

Ⅲ. 将来人口から見た八王子市の地域特性

Ⅲ．将来人口から見た八王子市の地域特性

本章では、八王子市の将来人口について CSPA3 を用いて推計した結果を、市全体と 6 地域、そして 14 地域に分けて示す。この推計は、国勢調査が行われた 2010（平成 22）年 10 月現在の現状から導かれた八王子市と各地域の将来像であり、将来の開発計画等については推計に含めていない。また、第Ⅱ章の 2．で述べたとおり、ここでは 6 地域及び 14 地域という 2 種類の地域区分に基づいてそれぞれ人口推計を行った。よって、市全体の推計結果は 6 地域の数値の合計と一致するわけではなく、6 地域の推計結果も 14 地域の数値の合計と異なっている。

本章に掲載した図表は次のとおりである。地域ごとの総人口の増減と年齢別の人口構造の変化を見るために「人口の推移」と「年齢 3 区分人口割合」を掲載し、「人口と人口比率の詳細」で具体的な数値を表として示した。そして、2010（平成 22）年以降 20 年ごとの「人口ピラミッド」を掲載し、「人口ピラミッドの詳細」ではその具体的な数値を示した。また、人口の増加率や年齢別の人口構造の変化に関しては、経年変化や地域ごとの差異を視覚的に確認するため、6 地域及び 14 地域に区分した地図を掲載した。

1．推計結果を見るうえでの前提条件

推計を行う中では、近年の人口変動による将来人口の推計への影響が強く出過ぎることを防ぐため、15～24 歳の人口が集中している地域と大規模開発等による人口の急増地域に対する調整を行ったうえ、推計は 2050（平成 62）年までとした。その詳細については以下に記しておく。

（1）学生の集中地域と人口の急増地域に対する調整

今回、将来の開発計画等の要素を加味した推計は行っていないが、地域によっては人口構造や最近の開発事情等を鑑み、それぞれの地域特性に合わせて 2 種類の調整を行った。

一つは、学生と考えられる人口が多い地域に対する調整である。八王子市は、23 の大学等を擁し、学生が多い年齢層と推測される 15～19 歳、20～24 歳の人口が他の年代と比べて突出して多い地域がある。こうした地域の 20～24 歳人口と 25～29 歳人口を比べると 25～29 歳人口の方がはるかに少なく、学生世代が卒業と同時にそれまで居住していた地域を離れることがうかがわれる。その際、転出届を提出しないケースもあるとのことで、当該年代の人口が国勢調査と住民基本台帳の間で相当程度食い違ふことがある。これは人口推計の支障となるため、15～19 歳、20～24 歳の人口及び転入・転出者数が非常に多い地域に関しては、当該年代の人口及び転入・転出者数から前後の年代の人口及び転入・転出者数の平均値を差し引いた人数を学生と仮定し、その学生分を差し引いている。つまり学生の転入が一切なかった場合の推計を行ったうえで、学生分を加えるという形で調整したわけである。これは、仮に将来人口が減少したとしても、現在と同数の学生が転入してきては数年後に転出していくという推計値である。

もう一つは、人口の急増地域に対する調整である。八王子市には、八王子ニュータウンなど最近の大規模開発を背景に過剰流入率（注 8）が非常に高い地域がある。しかし、こうした大規模開発はすでに終了したか、近い将来終了する予定であり、2050 年まで現在のような過剰流入率が維持されるとは考えにくい。よって今回は、人口急増地域の D I D（人口集中地区）（注 9）における人口密度を算出し、現時点よりも D I D 人口密度が少し増えた時点で転入率が下がるよう調整を加えた。これにより、当該地域への流入は将来のある時期から制限され、実情に近い推計値となっている。なお、こうした調整を実施したか否かは、各地域の解説に記した。

（2）2050 年までの推計とした理由

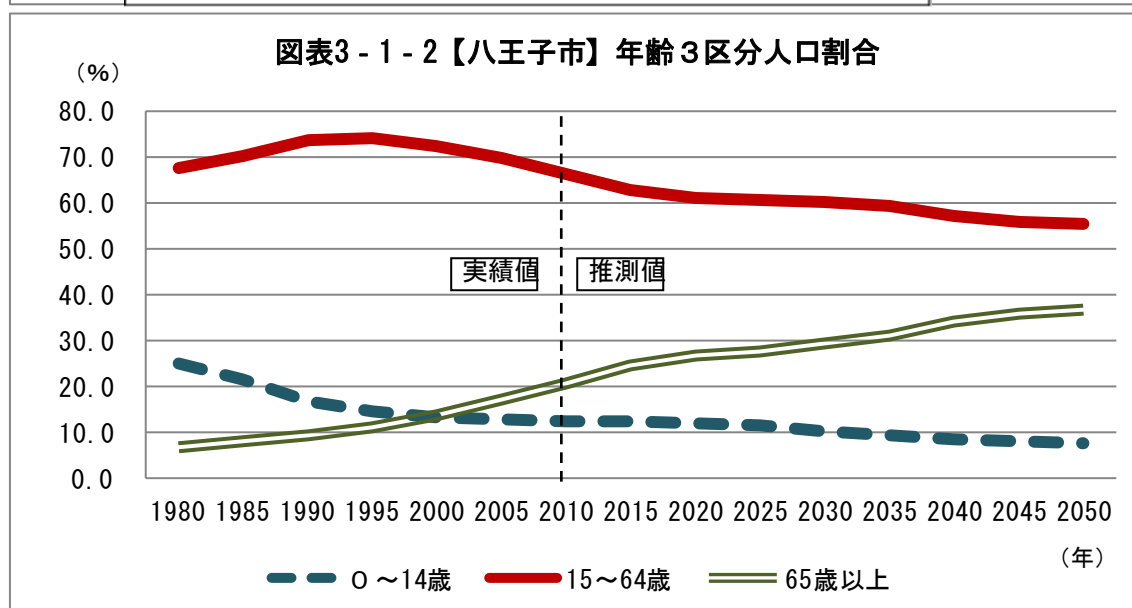
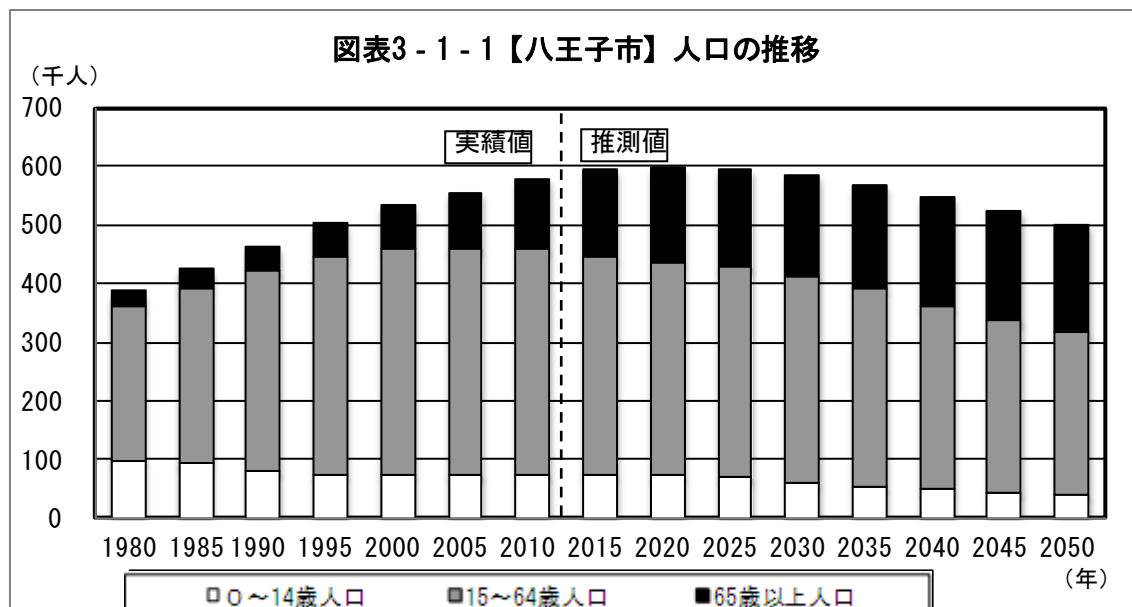
CSPS3 では先行き 100 年間の人口推計が可能であるが、今回は 2010（平成 22）～2050（平成 62）年の人口構造の経年変化を示すこととした。その理由は、大きく分けて 2 点である。

一つは、推計誤差の大きさを考慮した。将来人口の推計に際しては、現時点の人口に出生率や死亡率、社会移動率を掛け合わせるため、小さな誤差が積み重なることで 90 年後、100 年後の推計値は現実離れしたものとなる可能性もある。国立社会保障・人口問題研究所では先行き 50 年間の人口推計を発表しており、様々な自治体が 20～30 年の推計値を出していることから、今回は 2010（平成 22）～2050（平成 62）年の 40 年間に注目して人口推計を行うこととした。

もう一つは、40 年という期間が、新成人が社会に出て定年退職するまでの年数に一致することである。これは一つの世代が交代する年数と考えることができ、現状が継続した場合の人口構造の変化を一定の信頼性をもって測るには、この 40 年という期間が妥当であると判断した。

（３）八王子市における将来人口の推移

地域ごとの将来人口を見る前提として、本項ではまず八王子市全体の推計結果を示す。



図表3-1-3【八王子市】人口と人口比率の詳細

年	0～14		15～64		65～		合計
1980	97.5	25.2%	262.6	67.9%	26.9	6.9%	387.0
1985	93.0	21.8%	299.8	70.3%	33.7	7.9%	426.6
1990	78.6	16.9%	342.8	73.8%	42.9	9.2%	464.3
1995	73.0	14.5%	374.0	74.3%	56.2	11.2%	503.1
2000	72.2	13.5%	388.8	72.6%	74.5	13.9%	535.5
2005	71.6	12.9%	389.0	69.9%	96.2	17.3%	556.8
2010	72.7	12.5%	386.8	66.7%	120.5	20.8%	580.0
2015	73.4	12.3%	374.2	62.9%	147.3	24.8%	594.9
2020	71.0	11.9%	366.0	61.1%	161.5	27.0%	598.5
2025	67.7	11.4%	361.2	60.7%	166.0	27.9%	594.9
2030	59.3	10.1%	354.2	60.6%	171.1	29.3%	584.7
2035	52.7	9.3%	338.6	59.4%	178.2	31.3%	569.6
2040	47.3	8.6%	313.9	57.2%	187.5	34.2%	548.7
2045	42.4	8.1%	294.7	56.1%	188.3	35.8%	525.4
2050	38.3	7.6%	279.4	55.7%	184.2	36.7%	501.8

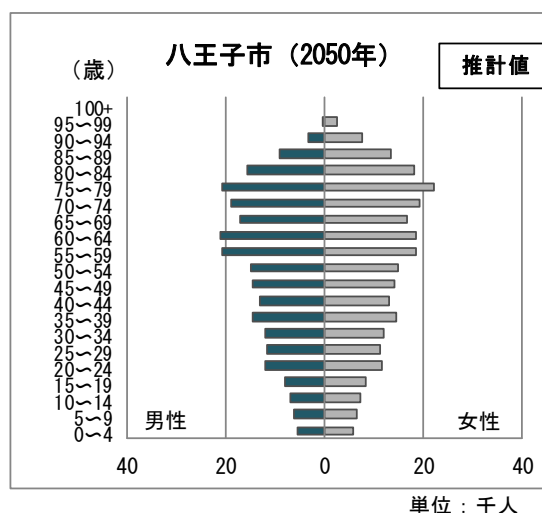
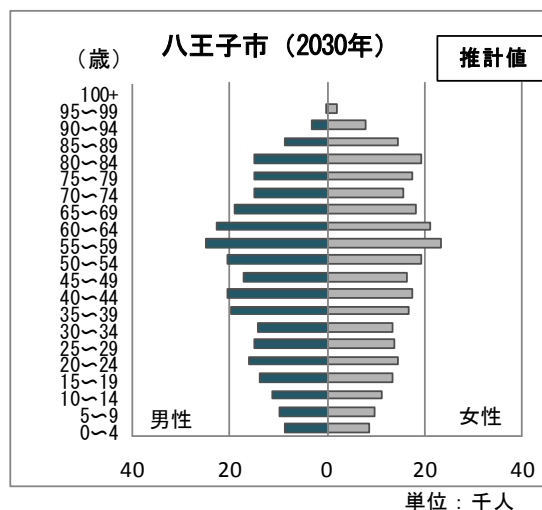
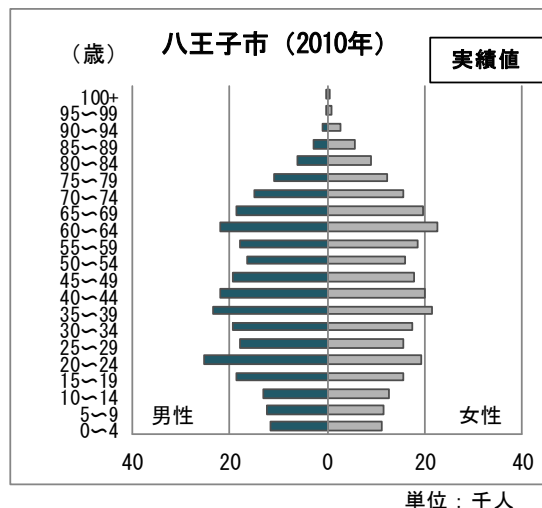
※図表3-1-1と3-1-2の数値を表として示した。単位：千人

図表3-1-5【八王子市】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	11.6	11.1	8.7	8.7	5.5	5.8
5～9	12.4	11.8	9.7	9.6	6.1	6.4
10～14	13.3	12.6	11.4	11.2	7.1	7.3
15～19	18.7	15.8	13.8	13.4	8.1	8.3
20～24	25.2	19.5	16.2	14.6	12.1	11.5
25～29	17.9	15.8	14.9	13.7	11.6	11.2
30～34	19.3	17.5	14.1	13.5	12.2	12.0
35～39	23.3	21.6	19.6	16.9	14.4	14.4
40～44	22.0	20.0	20.4	17.5	13.2	13.1
45～49	19.3	17.9	17.3	16.4	14.4	14.3
50～54	16.3	15.9	20.6	19.4	15.1	15.0
55～59	17.9	18.5	24.8	23.5	20.9	18.4
60～64	21.8	22.6	22.6	21.0	20.9	18.4
65～69	18.5	19.7	19.0	18.2	17.0	16.7
70～74	15.1	15.8	15.0	15.7	18.9	19.1
75～79	10.8	12.5	14.9	17.5	20.6	22.2
80～84	6.3	9.2	15.0	19.5	15.5	18.2
85～89	2.7	5.5	8.8	14.4	9.0	13.3
90～94	0.8	2.6	3.2	7.7	3.2	7.7
95～99	0.2	0.8	0.1	2.1	0.1	2.7
100+	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	293.4	286.6	290.1	294.5	246.0	255.9

※図表3-1-4の数値を表として示した。また、単位：千人
網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

図表3-1-4【八王子市】人口ピラミッド

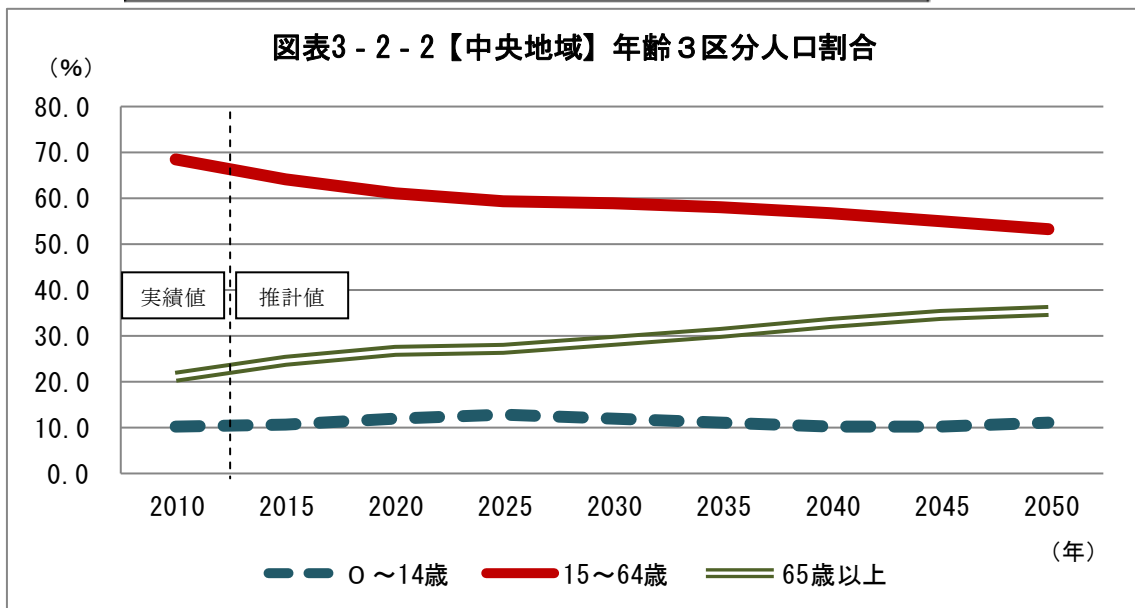
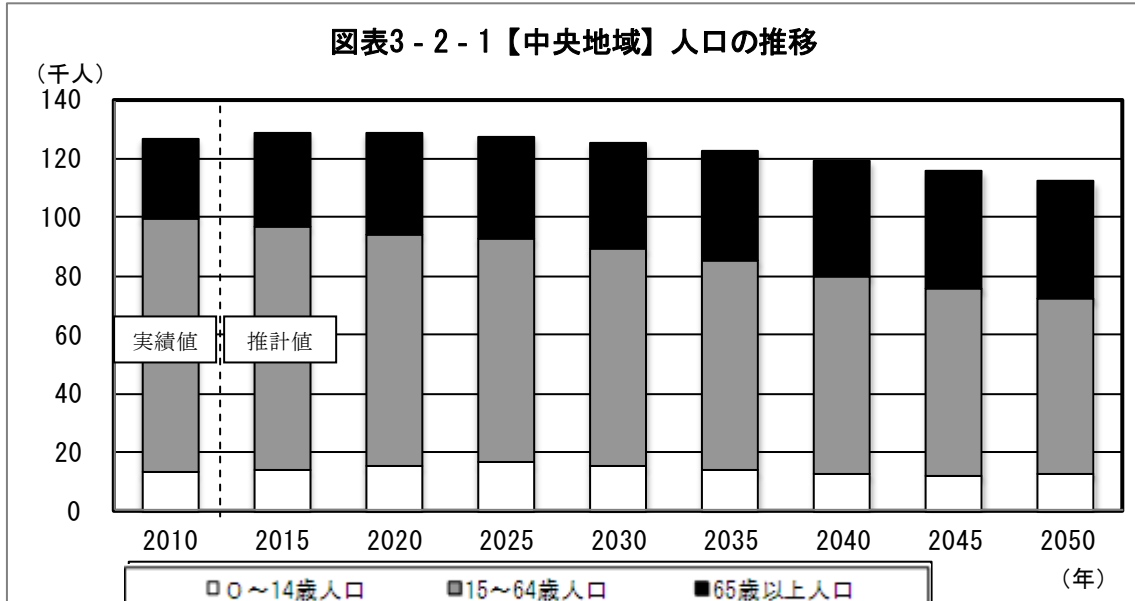


【八王子市】人口構造の特徴

八王子市全体の人口構造を見ると、第一次、第二次ベビーブーム世代の人口が多い点は他市と同じだが、15～24歳の学生世代の人口が多いことが大きな特徴となっている。総人口は2020（平成32）年に59万8,500人でピークとなり、その後は緩やかに減少していく。老年人口比率は2035（平成47）年に30%を超え、人口ピラミッドは逆三角形に変化していく。なお、P13で述べた15～24歳人口の集中地域と人口急増地域に関する調整は行っていない。

2. 6地域における将来人口の推移

(1) 中央地域（本庁管内）



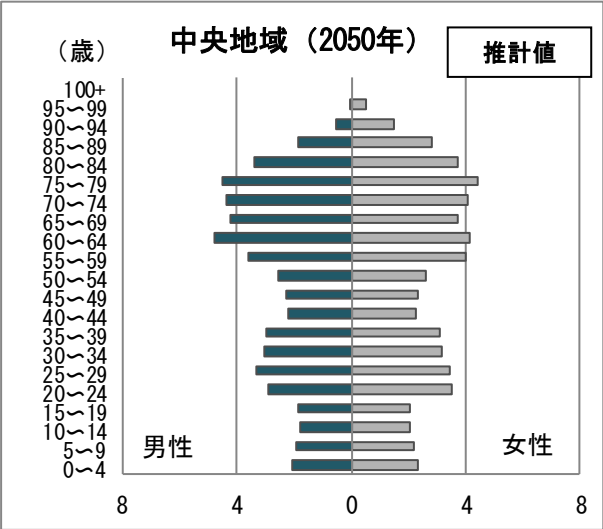
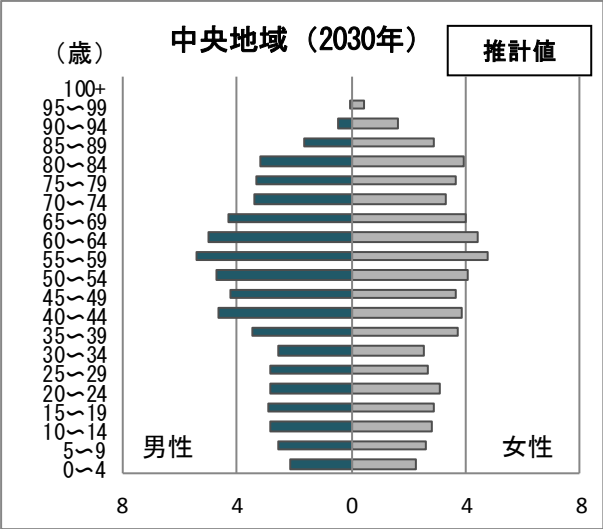
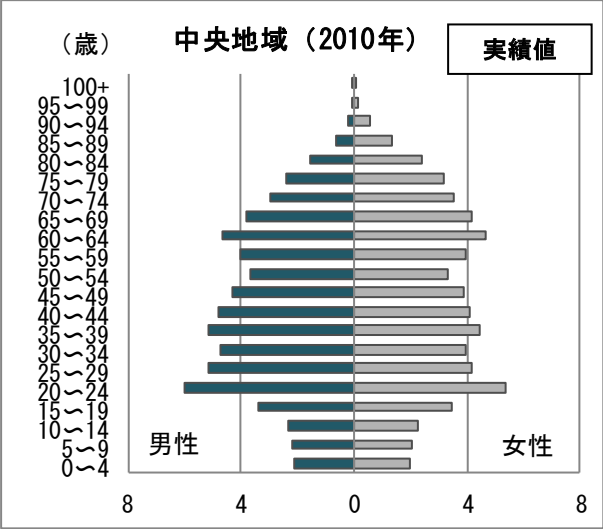
図表3-2-3【中央地域】人口と人口比率の詳細

年	0～14		15～64		65～		合計	
2010	12.9	10.2%	86.9	68.6%	26.9	21.2%	126.8	実績値
2015	13.9	10.8%	82.9	64.4%	31.9	24.8%	128.7	推計値
2020	15.3	11.9%	79.0	61.3%	34.4	26.8%	128.7	
2025	16.4	12.8%	76.2	59.7%	35.1	27.5%	127.6	
2030	15.2	12.1%	74.1	59.0%	36.2	28.8%	125.4	
2035	13.5	11.0%	71.6	58.4%	37.6	30.7%	122.7	
2040	12.1	10.2%	67.9	56.8%	39.4	33.0%	119.4	
2045	11.8	10.2%	64.1	55.3%	39.9	34.5%	115.8	
2050	12.4	11.0%	60.1	53.6%	39.6	35.3%	112.1	

単位：千人

※図表 3-2-3 は、図表 3-2-1
と 3-2-2 の数値を表として示
したもの

図表 3 - 2 - 4 【中央地域】人口ピラミッド



図表 3 - 2 - 5 【中央地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	2.1	2.0	2.2	2.3	2.0	2.3
5～9	2.2	2.0	2.6	2.6	1.9	2.2
10～14	2.4	2.2	2.8	2.8	1.8	2.0
15～19	3.4	3.4	2.9	2.9	1.9	2.1
20～24	6.0	5.3	2.9	3.1	2.9	3.5
25～29	5.1	4.1	2.8	2.7	3.3	3.4
30～34	4.8	4.0	2.6	2.5	3.0	3.1
35～39	5.1	4.4	3.5	3.7	3.0	3.1
40～44	4.8	4.1	4.6	3.9	2.2	2.2
45～49	4.3	3.8	4.2	3.6	2.3	2.3
50～54	3.7	3.3	4.7	4.1	2.5	2.6
55～59	4.0	3.9	5.4	4.7	3.6	4.0
60～64	4.6	4.6	5.0	4.4	4.8	4.1
65～69	3.8	4.1	4.3	4.0	4.2	3.7
70～74	3.0	3.5	3.4	3.3	4.4	4.1
75～79	2.4	3.2	3.3	3.7	4.5	4.4
80～84	1.6	2.4	3.2	3.9	3.4	3.7
85～89	0.7	1.3	1.7	2.9	1.9	2.8
90～94	0.2	0.6	0.5	1.6	0.5	1.5
95～99	0.1	0.2	0.0	0.5	0.0	0.5
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	64.0	62.7	62.4	63.1	54.3	57.8

単位：千人
※図表 3 - 2 - 5 は、図表 3 - 2 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【中央地域】

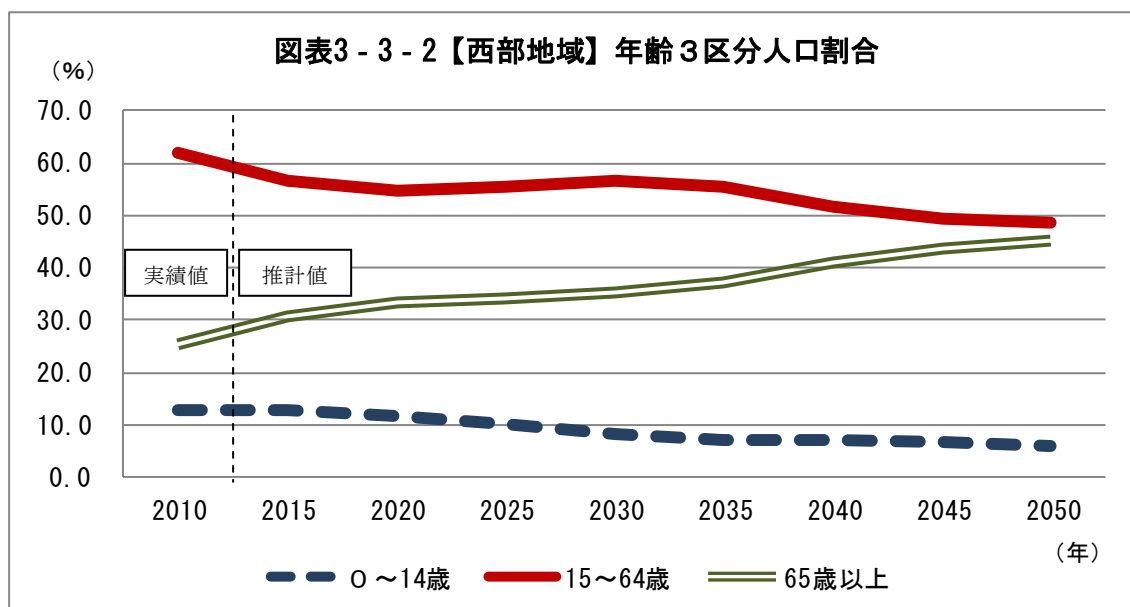
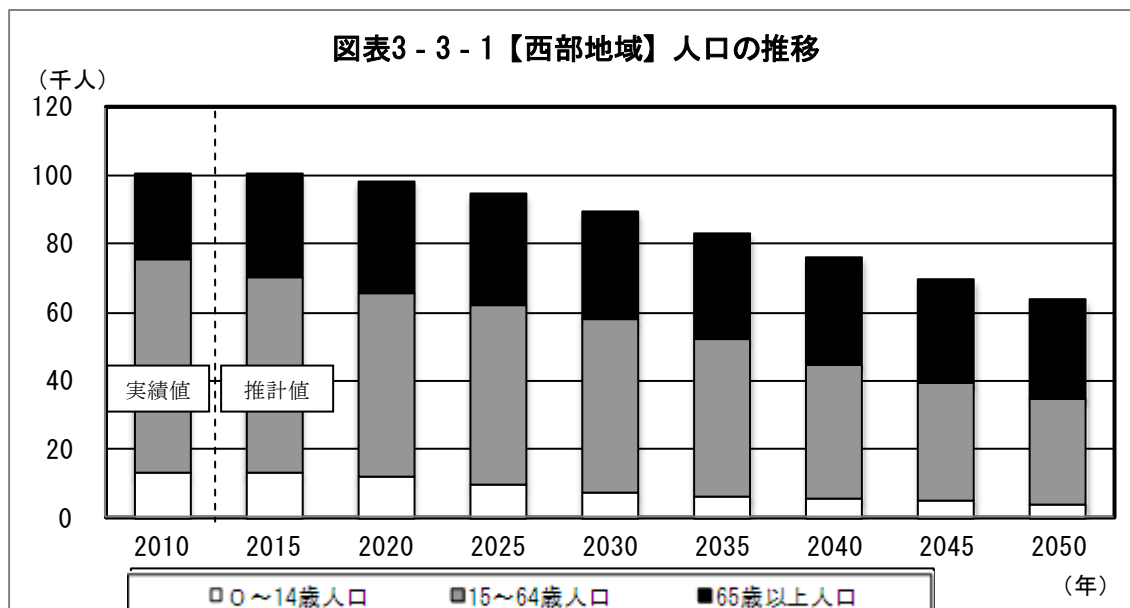
◆人口構造の特徴

中央地域の総人口は 2020（平成 32）年に 12 万 8,700 人でピークを迎え、その後は減少に転じる（図表 3 - 2 - 1）。老年人口比率が 2035（平成 47）年に 30％を超える一方、生産年齢人口比率は低下を続け、年少人口比率は 10～12％でほぼ横ばいとなる（図表 3 - 2 - 2）。また、2050（平成 62）年にかけて 60 歳以下の人口が減少する（図表 3 - 2 - 4）。

◆推計時の調整

なし

(2) 西部地域



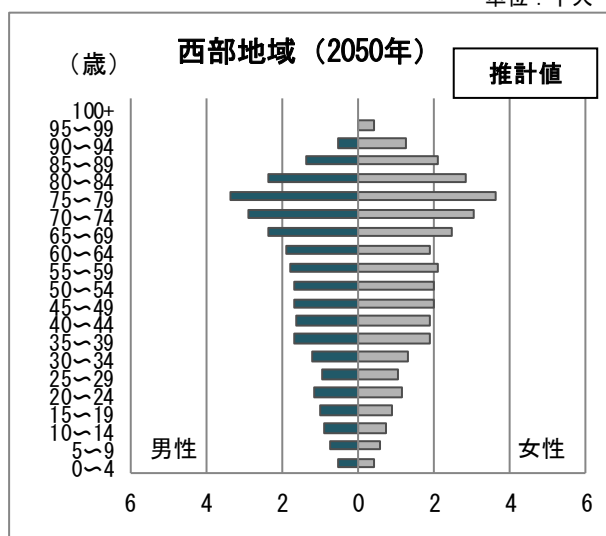
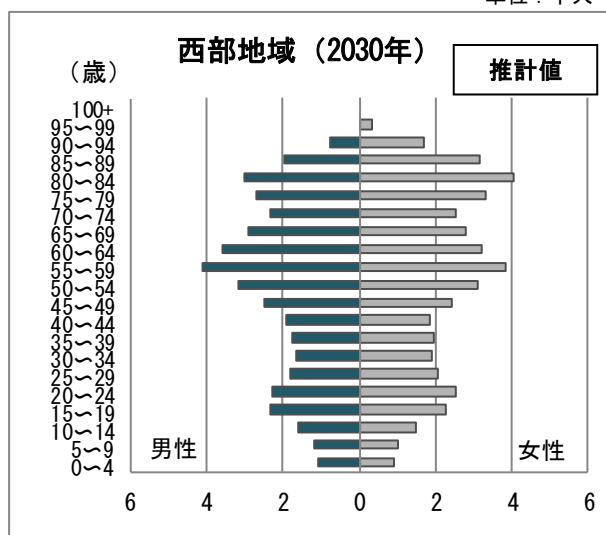
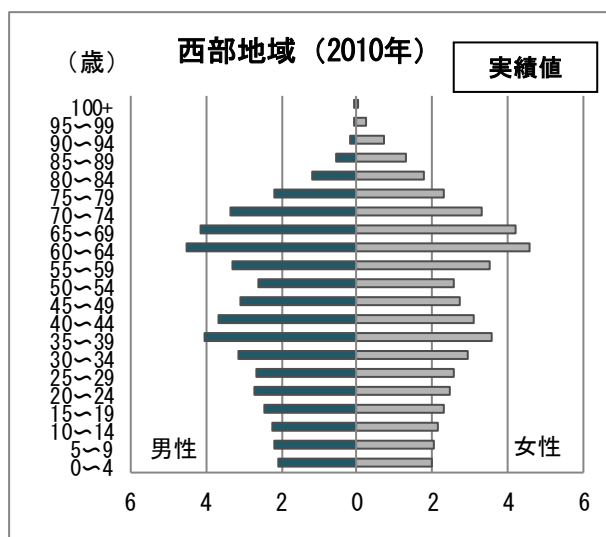
図表3 - 3 - 3【西部地域】人口と人口比率の詳細

年	0～14		15～64		65～		合計	
2010	12.7	12.6%	62.5	62.0%	25.5	25.3%	100.7	実績値
2015	12.9	12.8%	57.0	56.7%	30.7	30.5%	100.6	推計値
2020	11.6	11.7%	53.9	54.8%	32.9	33.4%	98.4	
2025	9.7	10.2%	52.4	55.5%	32.3	34.3%	94.4	
2030	7.2	8.1%	50.4	56.5%	31.5	35.4%	89.1	
2035	6.0	7.3%	45.9	55.4%	31.0	37.4%	82.9	
2040	5.4	7.1%	39.3	51.7%	31.3	41.2%	76.0	
2045	4.7	6.8%	34.4	49.5%	30.3	43.7%	69.4	
2050	3.9	6.1%	30.8	48.6%	28.8	45.3%	63.5	

単位：千人

※図表 3 - 3 - 3 は、図表 3 - 3 - 1
と 3 - 3 - 2 の数値を表として示
したもの

図表 3 - 3 - 4【西部地域】人口ピラミッド



図表3 - 3 - 5【西部地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	2.1	2.0	1.1	0.9	0.5	0.4
5～9	2.2	2.1	1.2	1.0	0.7	0.6
10～14	2.2	2.1	1.6	1.5	0.9	0.7
15～19	2.4	2.3	2.3	2.3	1.0	0.9
20～24	2.7	2.5	2.3	2.5	1.2	1.1
25～29	2.7	2.6	1.8	2.1	1.0	1.0
30～34	3.2	2.9	1.7	1.9	1.2	1.3
35～39	4.1	3.6	1.8	2.0	1.7	1.9
40～44	3.7	3.1	1.9	1.8	1.6	1.9
45～49	3.1	2.7	2.5	2.4	1.7	2.0
50～54	2.6	2.6	3.2	3.1	1.7	2.0
55～59	3.3	3.5	4.1	3.9	1.8	2.1
60～64	4.5	4.6	3.6	3.2	1.9	1.9
65～69	4.1	4.2	2.9	2.8	2.4	2.5
70～74	3.3	3.3	2.4	2.5	2.9	3.1
75～79	2.2	2.3	2.7	3.3	3.4	3.6
80～84	1.2	1.8	3.0	4.1	2.4	2.8
85～89	0.5	1.3	1.9	3.2	1.4	2.1
90～94	0.2	0.7	0.8	1.7	0.5	1.3
95～99	0.1	0.2	0.0	0.3	0.0	0.4
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	50.4	50.3	42.8	46.3	29.9	33.6

単位：千人

※図表 3 - 3 - 5 は、図表 3 - 3 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【西部地域】

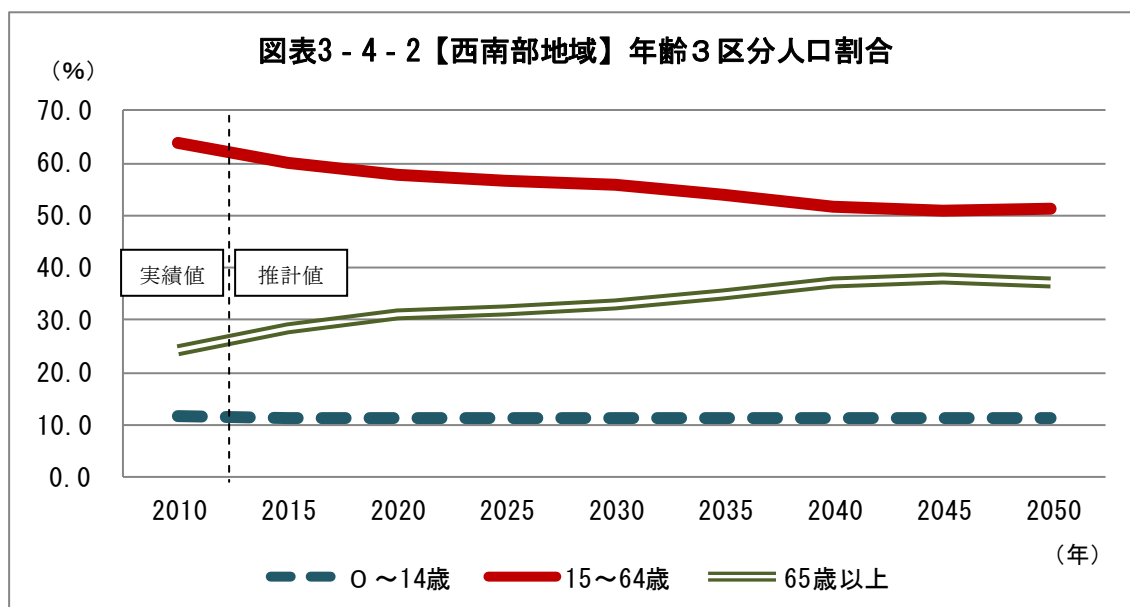
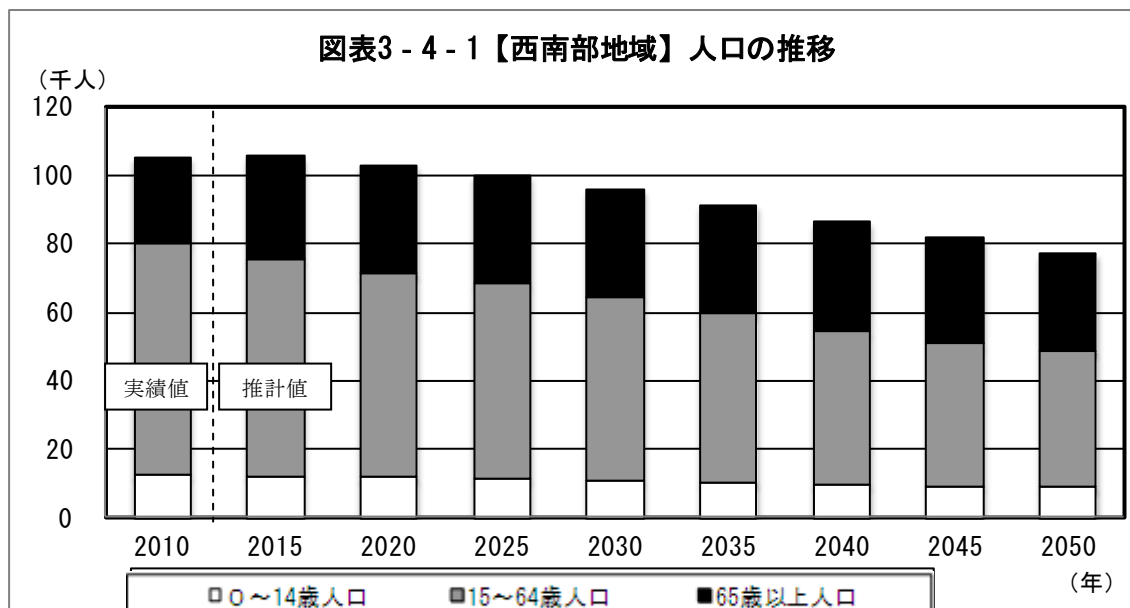
◆人口構造の特徴

西部地域の総人口は減少していく（図表 3 - 3 - 1）。年少人口比率と生産年齢人口比率も低下する一方、老年人口比率は上昇し、2015（平成 27）年には 30%を、2040（平成 52）年には 40%を上回る（図表 3 - 3 - 2）。人口ピラミッドは、2050（平成 62）年にかけて逆三角形へと移行していく（図表 3 - 3 - 4）。

◆推計時の調整

なし

(3) 西南部地域



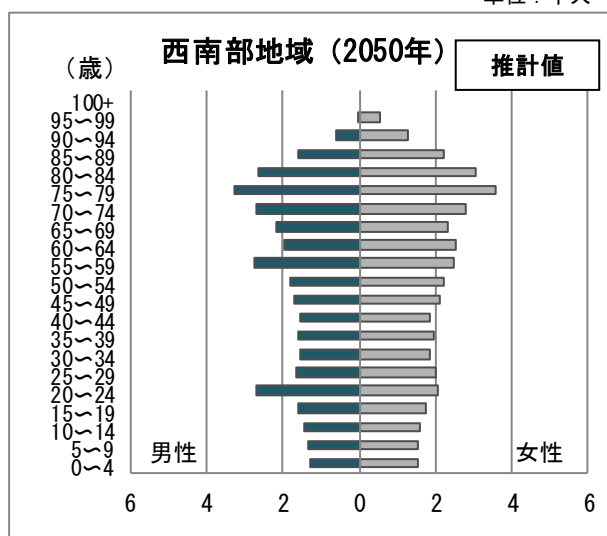
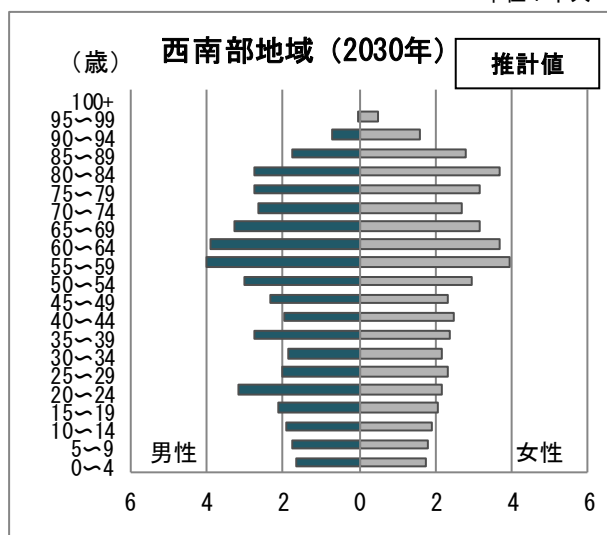
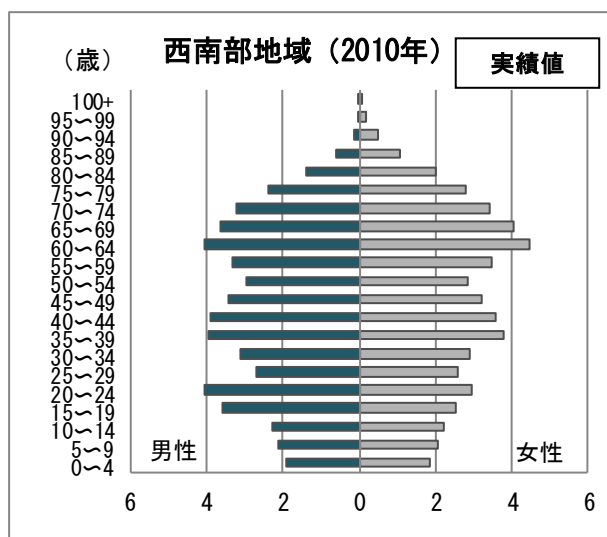
図表3-4-3【西南部地域】人口と人口比率の詳細

年	0～14		15～64		65～		合計	
2010	12.4	11.8%	67.4	64.0%	25.4	24.1%	105.2	実績値
2015	12.0	11.4%	63.3	60.0%	30.1	28.5%	105.4	推計値
2020	11.6	11.2%	59.4	57.7%	32.0	31.1%	103.0	
2025	11.4	11.4%	56.8	56.8%	31.8	31.8%	100.0	
2030	10.8	11.2%	53.5	55.8%	31.6	33.0%	95.9	
2035	10.2	11.2%	49.3	54.0%	31.8	34.8%	91.3	
2040	9.6	11.1%	44.5	51.5%	32.3	37.3%	86.4	
2045	9.1	11.2%	41.5	50.9%	31.0	37.9%	81.6	
2050	8.8	11.4%	39.6	51.3%	28.8	37.3%	77.2	

※図表3-4-3は、図表3-4-1と3-4-2の数値を表として示したもの

単位：千人

図表 3 - 4 - 4 【西南部地域】人口ピラミッド



図表3 - 4 - 5 【西南部地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	1.9	1.8	1.6	1.7	1.3	1.5
5～9	2.1	2.1	1.8	1.8	1.4	1.5
10～14	2.3	2.2	1.9	1.9	1.5	1.6
15～19	3.6	2.5	2.1	2.1	1.6	1.7
20～24	4.1	2.9	3.2	2.2	2.7	2.1
25～29	2.7	2.6	2.0	2.3	1.7	2.0
30～34	3.1	2.9	1.9	2.2	1.6	1.9
35～39	4.0	3.8	2.7	2.4	1.6	1.9
40～44	3.9	3.6	2.0	2.5	1.5	1.8
45～49	3.4	3.2	2.3	2.3	1.7	2.1
50～54	3.0	2.8	3.0	2.9	1.8	2.2
55～59	3.4	3.4	4.0	3.9	2.7	2.5
60～64	4.1	4.4	3.9	3.6	2.0	2.5
65～69	3.6	4.1	3.3	3.2	2.2	2.3
70～74	3.2	3.4	2.7	2.7	2.7	2.8
75～79	2.4	2.8	2.8	3.1	3.3	3.6
80～84	1.4	2.0	2.8	3.7	2.6	3.0
85～89	0.6	1.1	1.8	2.8	1.6	2.2
90～94	0.2	0.5	0.7	1.6	0.6	1.3
95～99	0.0	0.1	0.1	0.5	0.0	0.5
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	53.0	52.3	46.4	49.4	36.1	41.1

単位：千人

※図表 3 - 4 - 5 は、図表 3 - 4 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【西南部地域】

◆人口構造の特徴

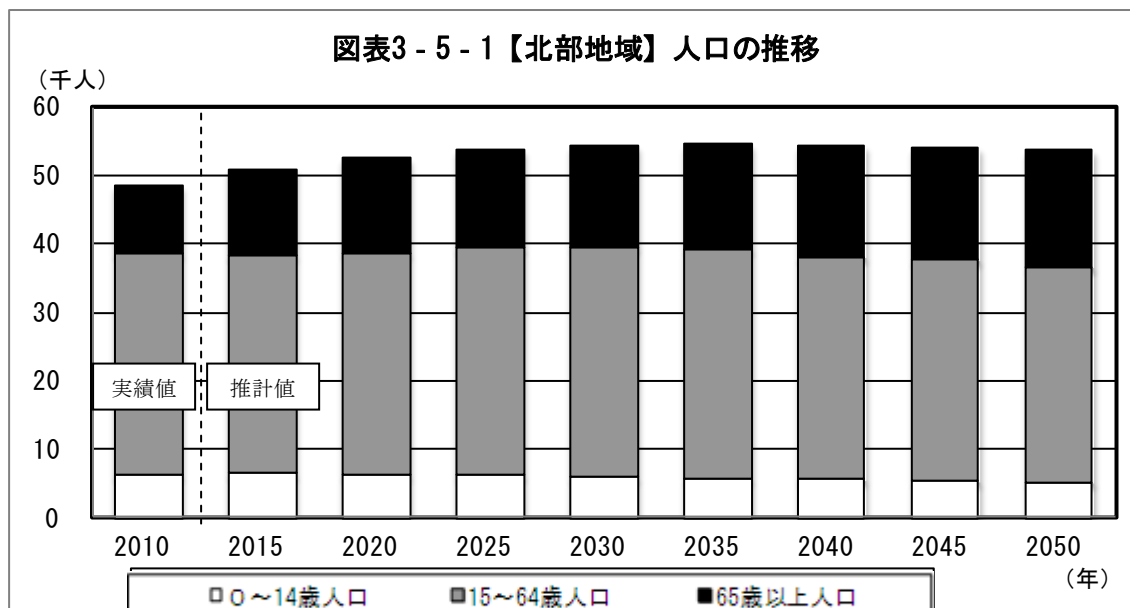
西南部地域の総人口は 2015（平成 27）年に 10 万 5,400 人でピークを迎え、その後は減少する（図表 3 - 4 - 1）。老年人口比率は 2020（平成 32）年に 30%を超え、その後も上昇する（図表 3 - 4 - 2）。人口ピラミッドからは、学生世代の転入と、20 代後半での転出が見て取れる（図表 3 - 4 - 4）。

◆推計時の調整

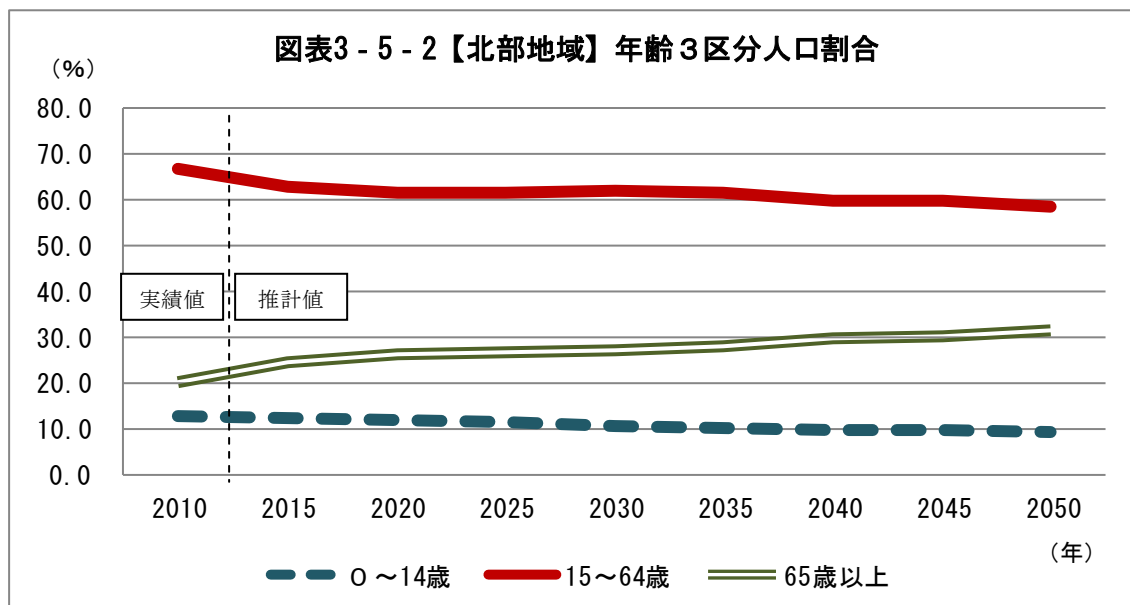
男女とも近年における 15～19 歳、20～24 歳の転入とその後の転出が他地域と比べて多いため、当該世代の男女人口を調整。

(4) 北部地域

図表3 - 5 - 1【北部地域】人口の推移



図表3 - 5 - 2【北部地域】年齢3区分人口割合



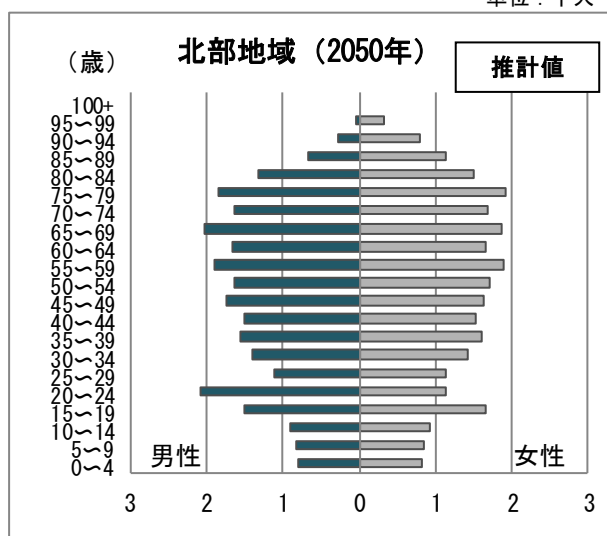
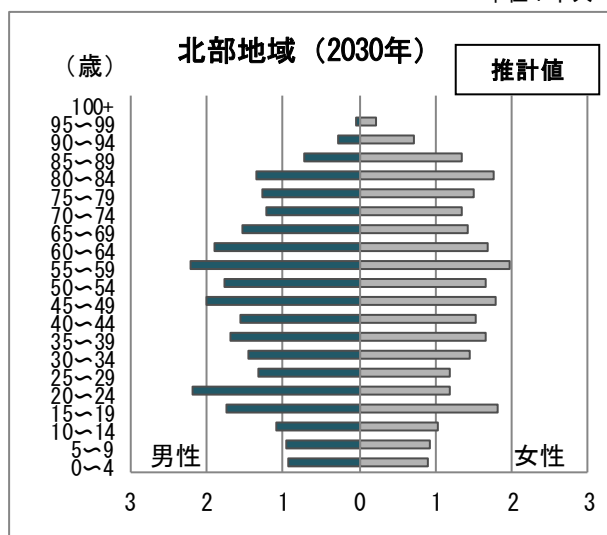
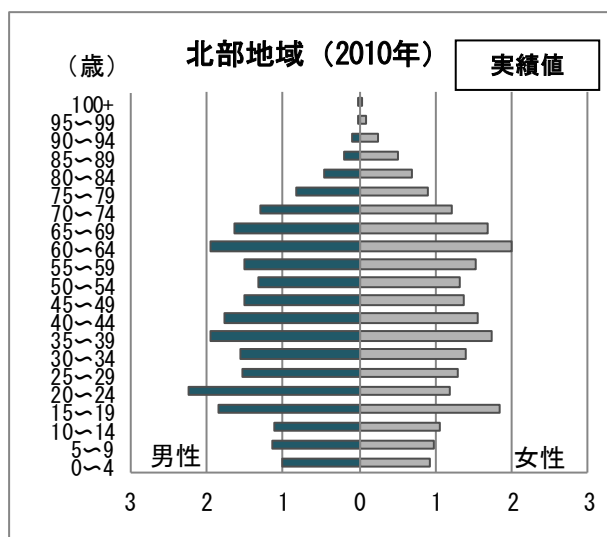
図表3 - 5 - 3【北部地域】人口と人口比率の詳細

年	0～14		15～64		65～		合計	
2010	6.2	12.8%	32.4	66.8%	9.9	20.4%	48.5	実績値
2015	6.3	12.4%	32.0	63.0%	12.5	24.5%	50.8	推計値
2020	6.2	11.8%	32.4	61.8%	13.8	26.3%	52.5	
2025	6.1	11.4%	33.2	61.9%	14.3	26.7%	53.6	
2030	5.8	10.7%	33.7	62.2%	14.7	27.1%	54.2	
2035	5.6	10.3%	33.6	61.6%	15.3	28.1%	54.5	
2040	5.5	10.1%	32.6	60.1%	16.2	29.9%	54.3	
2045	5.3	9.8%	32.3	59.9%	16.3	30.3%	53.9	
2050	5.1	9.5%	31.5	58.7%	17.0	31.7%	53.6	

※図表 3 - 5 - 3 は、図表 3 - 5 - 1
と 3 - 5 - 2 の数値を表として示
したもの

単位：千人

図表 3 - 5 - 4【北部地域】人口ピラミッド



図表 3 - 5 - 5【北部地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	1.0	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8
5～9	1.1	1.0	1.0	0.9	0.8	0.8
10～14	1.1	1.0	1.1	1.0	0.9	0.9
15～19	1.9	1.8	1.7	1.8	1.5	1.6
20～24	2.2	1.2	2.2	1.2	2.1	1.1
25～29	1.5	1.3	1.3	1.2	1.1	1.1
30～34	1.6	1.4	1.4	1.4	1.4	1.4
35～39	2.0	1.7	1.7	1.7	1.5	1.6
40～44	1.8	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5
45～49	1.5	1.4	2.0	1.8	1.7	1.6
50～54	1.3	1.3	1.8	1.6	1.6	1.7
55～59	1.5	1.5	2.2	2.0	1.9	1.9
60～64	1.9	2.0	1.9	1.7	1.7	1.7
65～69	1.6	1.7	1.5	1.4	2.0	1.9
70～74	1.3	1.2	1.2	1.3	1.6	1.7
75～79	0.8	0.9	1.3	1.5	1.8	1.9
80～84	0.5	0.7	1.3	1.8	1.3	1.5
85～89	0.2	0.5	0.7	1.3	0.7	1.1
90～94	0.1	0.2	0.3	0.7	0.3	0.8
95～99	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.3
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	25.0	23.5	27.2	27.0	26.5	27.1

単位：千人

※図表 3 - 5 - 5 は、図表 3 - 5 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【北部地域】

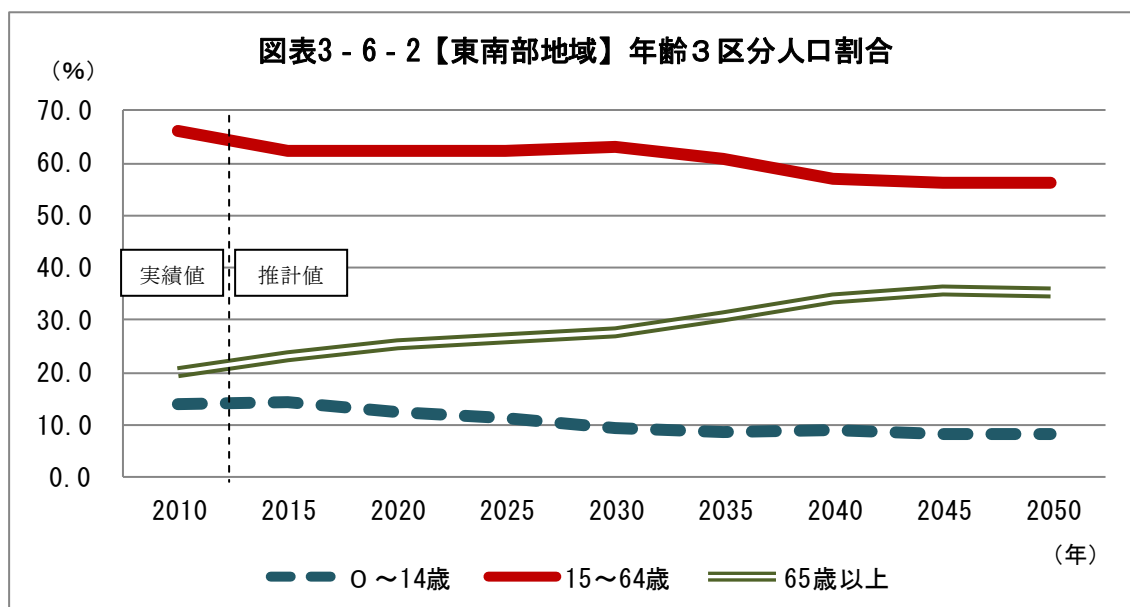
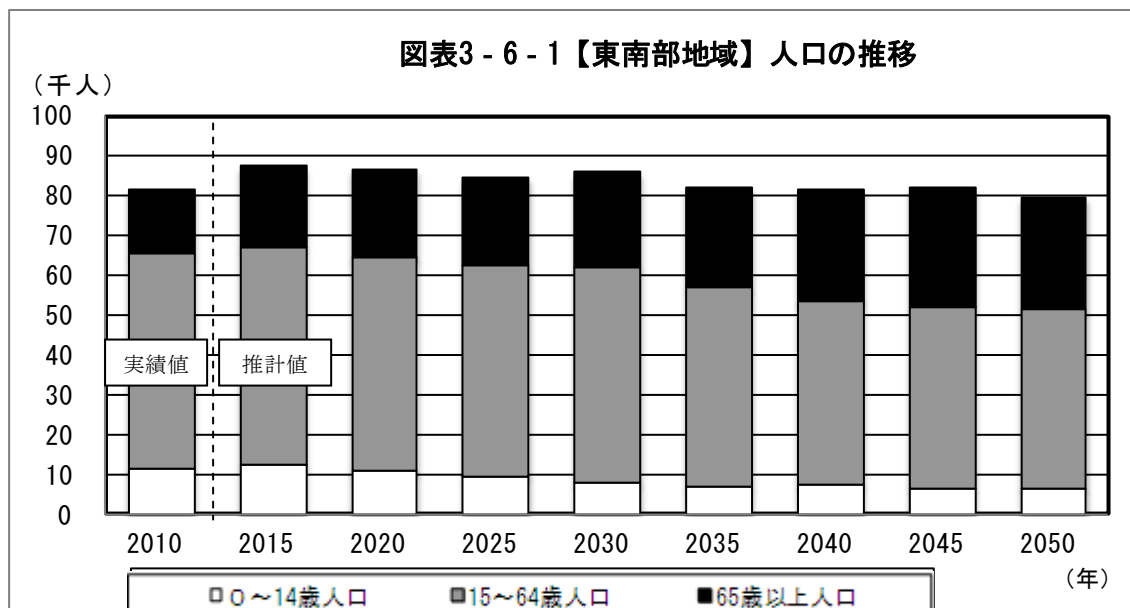
◆人口構造の特徴

北部地域の総人口は緩やかながら 2035（平成 47）年まで増加を続ける（図表 3 - 5 - 1）。年少人口比率と生産年齢人口比率は低下し、老年人口比率は上昇していく（図表 3 - 5 - 2）。人口ピラミッドからは、学生世代の転入と、20 代後半での転出が見て取れる（図表 3 - 5 - 4）。

◆推計時の調整

男女とも近年における 15～19 歳、20～24 歳の転入とその後の転出が他地域と比べて多いため、当該世代の男女人口を調整。

(5) 東南部地域



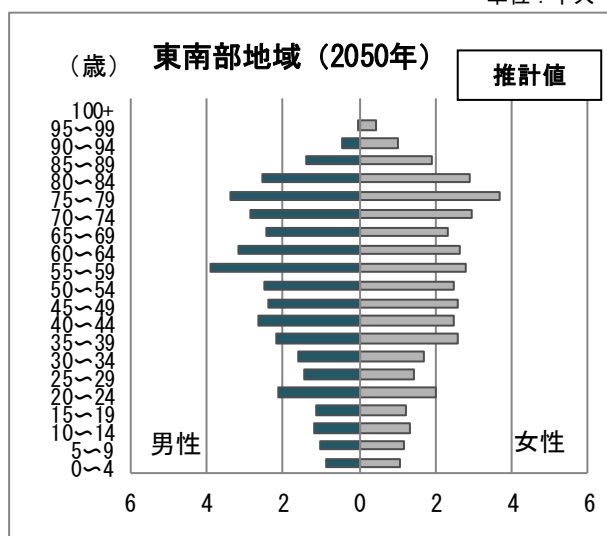
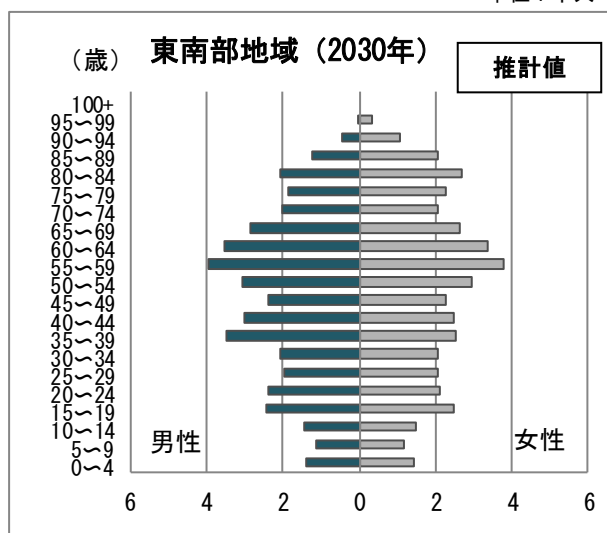
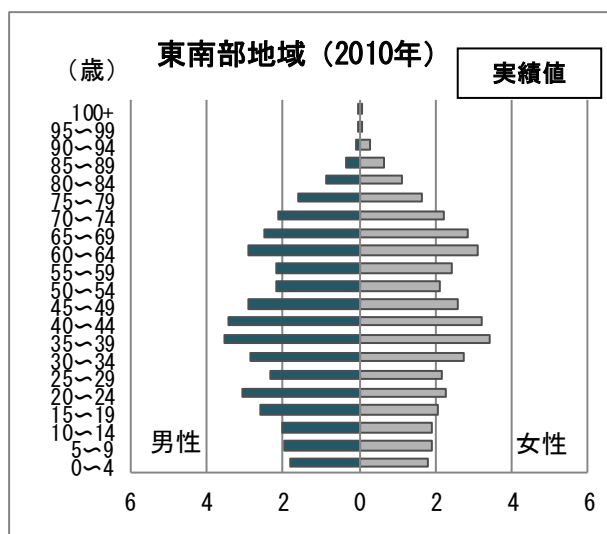
図表3 - 6 - 3【東南部地域】人口と人口比率の詳細

年	0～14		15～64		65～		合計	
2010	11.4	14.0%	54.0	66.0%	16.4	20.0%	81.8	実績値
2015	12.5	14.3%	54.6	62.4%	20.4	23.3%	87.5	推計値
2020	10.8	12.5%	54.0	62.2%	21.9	25.3%	86.7	
2025	9.5	11.2%	53.0	62.5%	22.3	26.4%	84.8	
2030	8.0	9.3%	54.3	63.2%	23.7	27.5%	86.0	
2035	7.1	8.6%	50.1	60.8%	25.2	30.6%	82.3	
2040	7.4	9.0%	46.5	56.8%	27.9	34.2%	81.8	
2045	6.6	8.1%	45.4	55.4%	30.0	36.5%	82.1	
2050	6.6	8.3%	44.9	56.3%	28.3	35.4%	79.8	

※図表 3 - 6 - 3 は、図表 3 - 6 - 1
と 3 - 6 - 2 の数値を表として示
したもの

単位：千人

図表 3 - 6 - 4【東南部地域】人口ピラミッド



図表3 - 6 - 5【東南部地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	1.8	1.8	1.4	1.4	0.9	1.1
5～9	2.0	1.9	1.1	1.2	1.0	1.1
10～14	2.0	1.9	1.4	1.5	1.2	1.3
15～19	2.6	2.1	2.4	2.5	1.1	1.2
20～24	3.1	2.3	2.4	2.1	2.1	2.0
25～29	2.4	2.1	2.0	2.1	1.4	1.4
30～34	2.9	2.7	2.1	2.0	1.6	1.7
35～39	3.6	3.4	3.5	2.5	2.2	2.6
40～44	3.4	3.2	3.0	2.5	2.7	2.5
45～49	2.9	2.6	2.4	2.3	2.4	2.6
50～54	2.2	2.1	3.0	2.9	2.5	2.5
55～59	2.2	2.4	4.0	3.8	3.9	2.8
60～64	2.9	3.1	3.5	3.3	3.2	2.6
65～69	2.5	2.8	2.9	2.6	2.4	2.3
70～74	2.1	2.2	2.0	2.1	2.9	2.9
75～79	1.6	1.7	1.8	2.3	3.4	3.7
80～84	0.8	1.1	2.1	2.7	2.5	2.9
85～89	0.3	0.6	1.2	2.0	1.4	1.9
90～94	0.1	0.3	0.5	1.1	0.4	1.0
95～99	0.0	0.1	0.0	0.3	0.0	0.4
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	41.4	40.4	42.8	43.2	39.3	40.5

単位：千人

※図表 3 - 6 - 5 は、図表 3 - 6 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【東南部地域】

◆人口構造の特徴

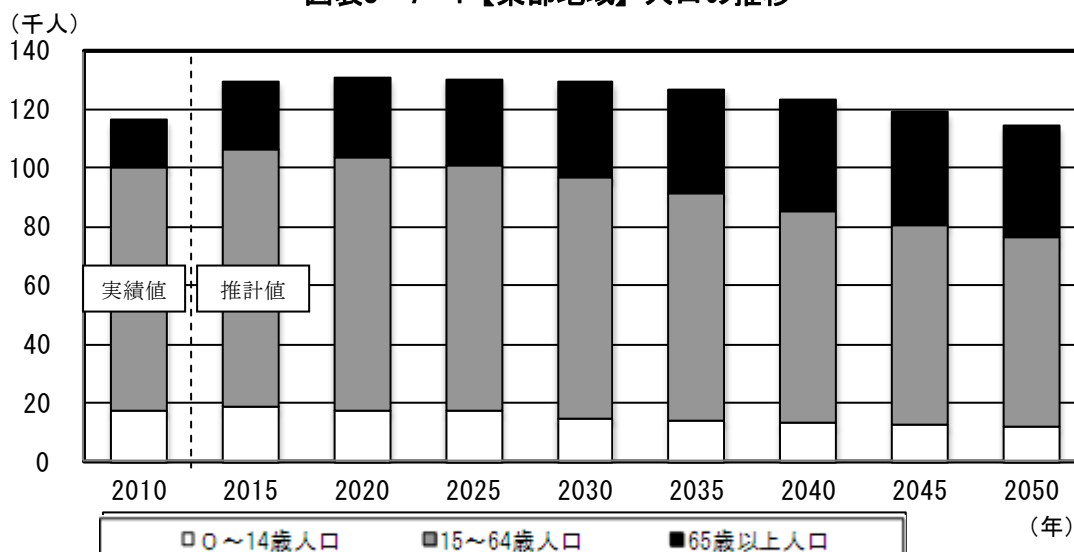
東南部地域の総人口は概ね横ばいとなる（図表 3 - 6 - 1）。年少人口比率と生産年齢人口比率はともに低下し、老年人口比率は上昇する（図表 3 - 6 - 2）。そのため、人口ピラミッドは 2050（平成 62）年にかけて逆三角形に変化していく（図表 3 - 6 - 4）。

◆推計時の調整

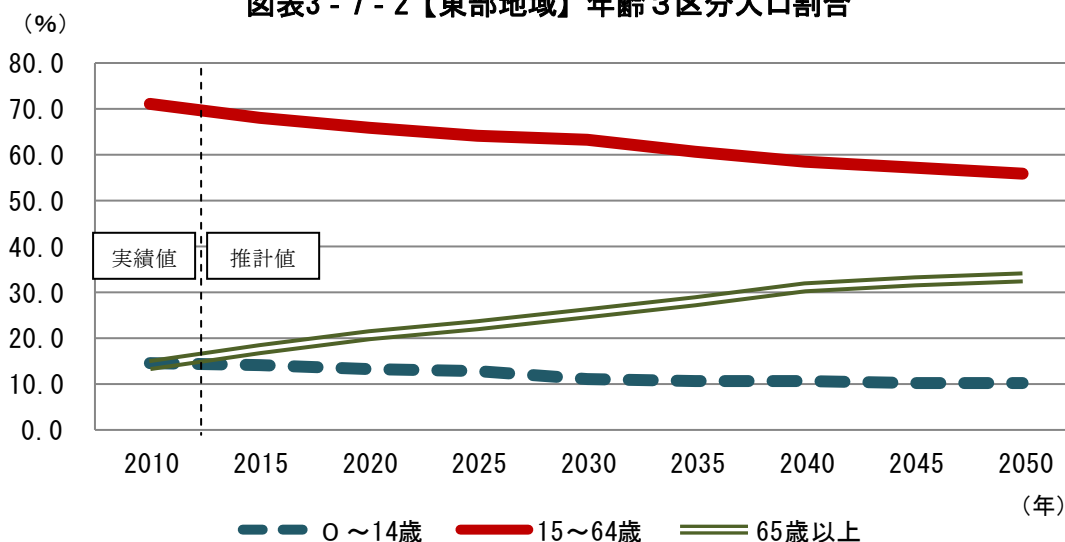
男女とも近年における 15～19 歳、20～24 歳の転入とその後の転出が他地域と比べて多いため、当該世代の男女人口を調整。

(6) 東部地域

図表3 - 7 - 1【東部地域】人口の推移



図表3 - 7 - 2【東部地域】年齢3区分人口割合



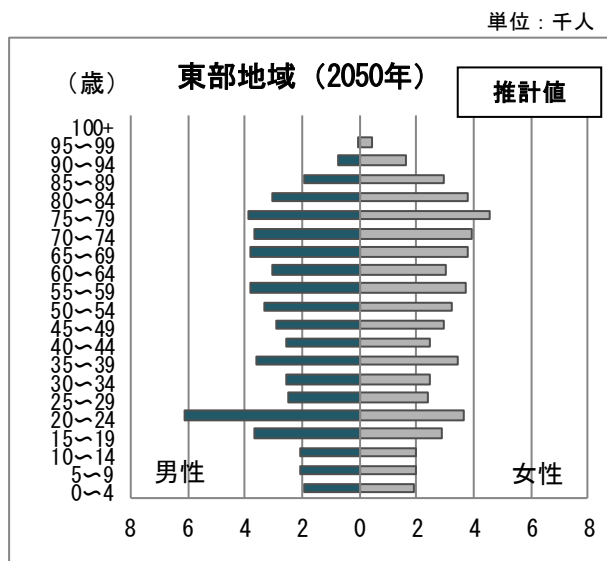
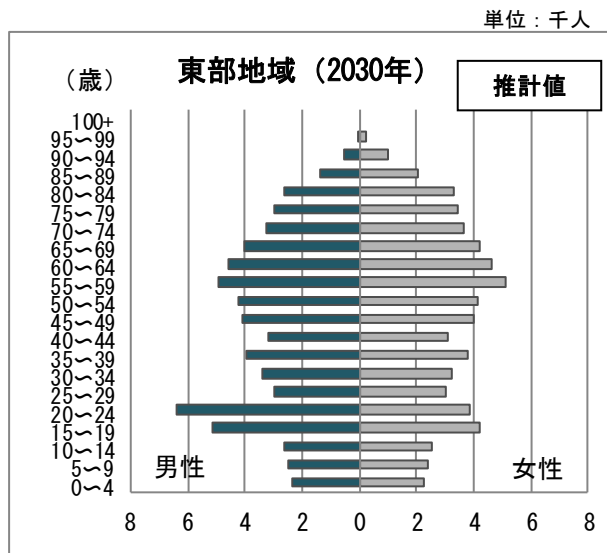
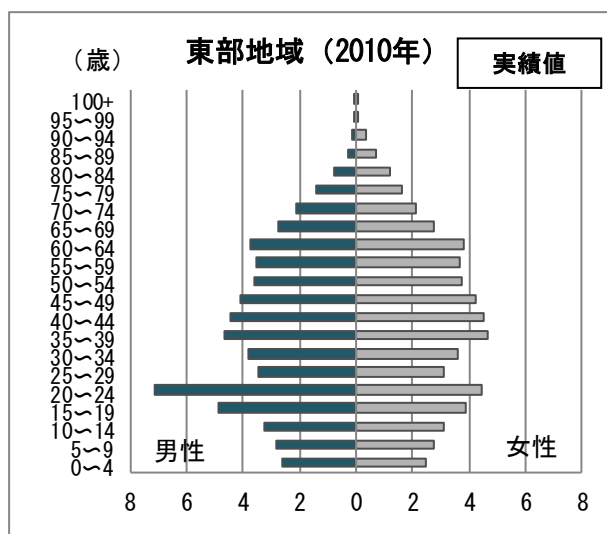
図表3 - 7 - 3【東部地域】人口と人口比率の詳細

年	0～14		15～64		65～		合計	
2010	17.0	14.6%	83.0	71.3%	16.4	14.1%	116.4	実績値
2015	18.2	14.0%	88.3	68.2%	23.0	17.8%	129.5	推計値
2020	17.3	13.2%	86.5	66.2%	26.8	20.5%	130.6	
2025	17.0	13.1%	83.7	64.2%	29.7	22.8%	130.4	
2030	14.6	11.3%	81.9	63.4%	32.7	25.3%	129.2	
2035	13.8	10.9%	77.3	61.0%	35.6	28.1%	126.7	
2040	13.0	10.5%	72.0	58.4%	38.2	31.0%	123.2	
2045	12.3	10.4%	68.1	57.2%	38.6	32.4%	119.0	
2050	11.9	10.4%	64.3	56.2%	38.3	33.5%	114.4	

単位：千人

※図表 3 - 7 - 3 は、図表 3 - 7 - 1
と 3 - 7 - 2 の数値を表として示
したもの

図表 3 - 7 - 4【東部地域】人口ピラミッド



図表3 - 7 - 5【東部地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	2.6	2.5	2.4	2.3	2.0	1.9
5～9	2.8	2.7	2.5	2.4	2.0	2.0
10～14	3.3	3.1	2.6	2.5	2.1	2.0
15～19	4.9	3.9	5.1	4.2	3.7	2.9
20～24	7.1	4.5	6.4	3.8	6.1	3.6
25～29	3.5	3.1	3.0	3.0	2.5	2.4
30～34	3.8	3.6	3.4	3.2	2.6	2.5
35～39	4.6	4.7	3.9	3.8	3.6	3.4
40～44	4.5	4.5	3.2	3.1	2.6	2.5
45～49	4.1	4.2	4.1	4.0	2.9	3.0
50～54	3.6	3.7	4.2	4.2	3.3	3.2
55～59	3.5	3.7	4.9	5.1	3.8	3.7
60～64	3.7	3.8	4.6	4.6	3.1	3.0
65～69	2.8	2.8	4.0	4.2	3.8	3.8
70～74	2.1	2.1	3.3	3.6	3.7	3.9
75～79	1.4	1.6	3.0	3.5	3.9	4.6
80～84	0.8	1.2	2.6	3.3	3.1	3.8
85～89	0.3	0.7	1.4	2.0	1.9	3.0
90～94	0.1	0.3	0.5	1.0	0.8	1.6
95～99	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.4
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	59.6	56.8	65.1	64.1	57.4	57.0

単位：千人

※図表 3 - 7 - 5 は、図表 3 - 7 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【東部地域】

◆人口構造の特徴

東部地域の総人口は 2020（平成 32）年に 13 万 600 人でピークを迎え、その後は緩やかに減少する（図表 3 - 7 - 1）。老年人口比率は上昇し、2040（平成 52）年に 30%を上回る（図表 3 - 7 - 2）。人口ピラミッドからも、学生世代の転出と 20 代後半での転出が見て取れる（図表 3 - 7 - 4）。

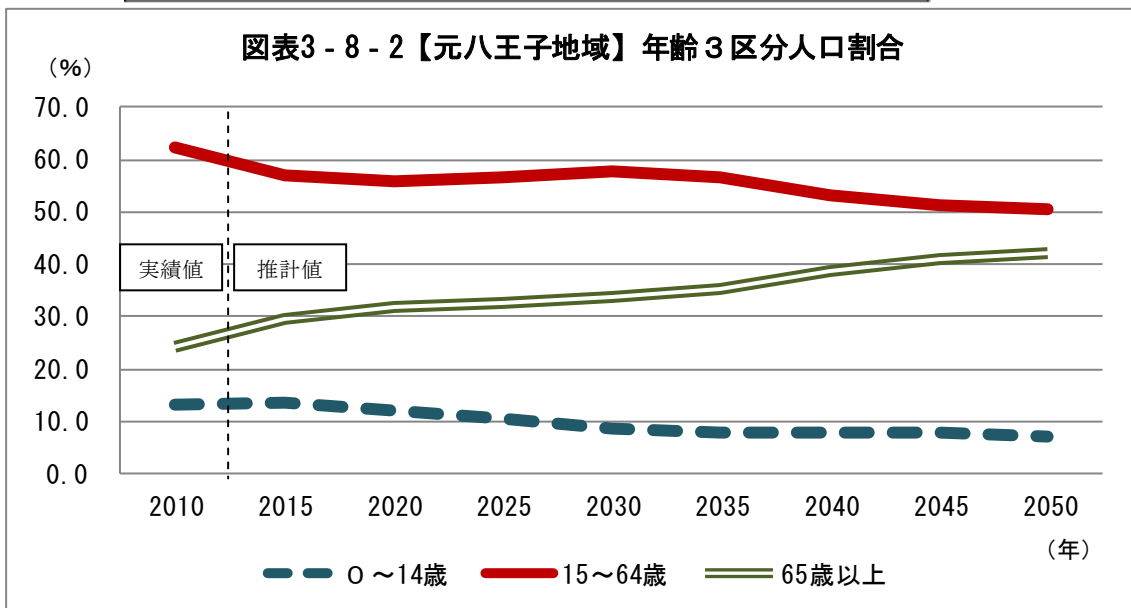
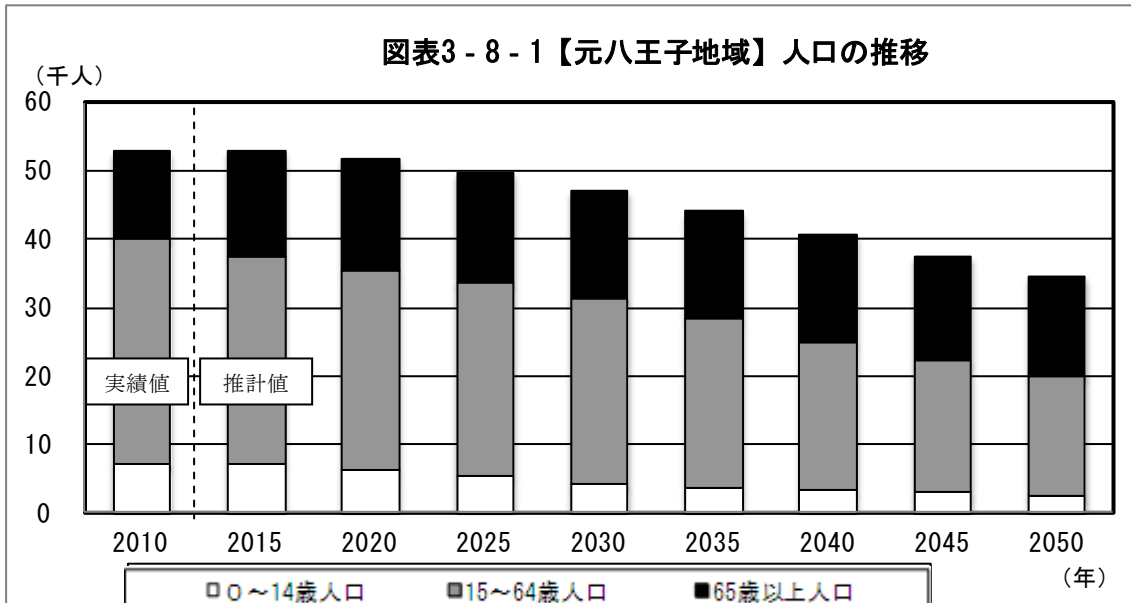
◆推計時の調整

男女とも近年における 15～19 歳、20～24 歳の転入とその後の転出が他地域と比べて多いため、当該世代の男女人口を調整。

3. 14 地域における将来人口の推移

(1) 元八王子地域（西部地域）

※本庁管内は6地域区分の中央地域と同じであるため省略



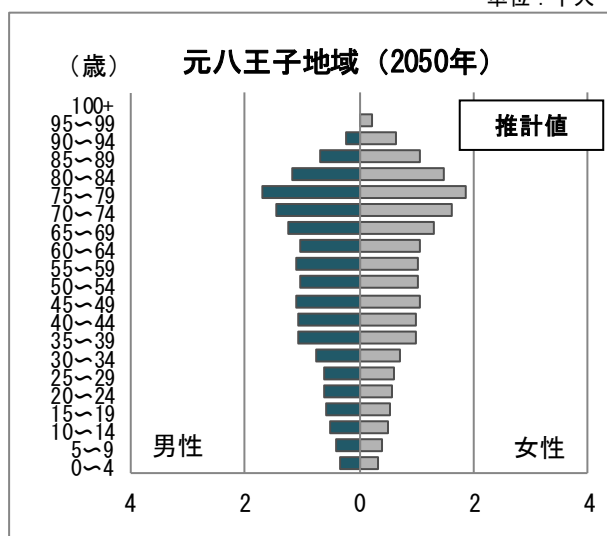
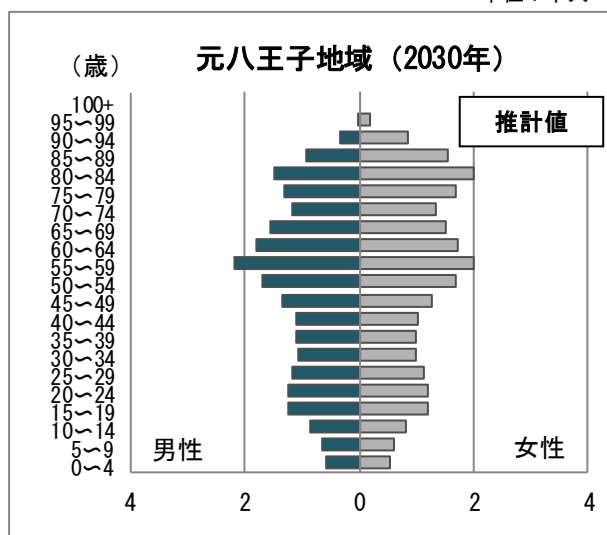
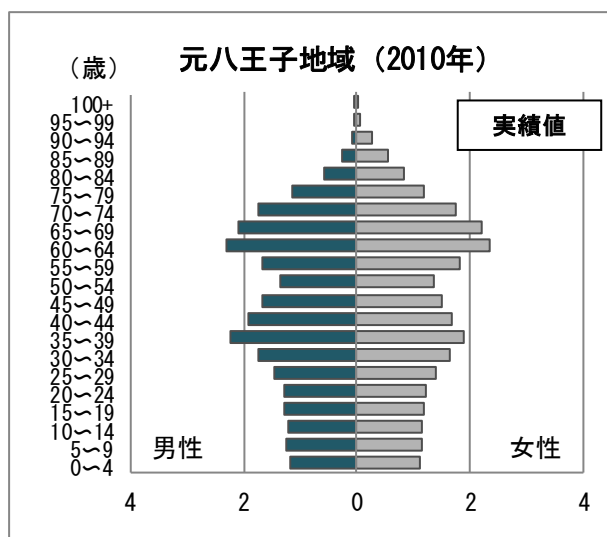
図表3-8-3【元八王子地域】人口と人口比率の詳細

年	0～14		15～64		65～		合計	
2010	7.0	13.3%	32.9	62.4%	12.8	24.2%	52.7	実績値
2015	7.1	13.4%	30.2	57.2%	15.5	29.4%	52.9	推計値
2020	6.3	12.2%	28.9	55.8%	16.6	32.0%	51.8	
2025	5.3	10.6%	28.2	56.7%	16.3	32.7%	49.8	
2030	4.0	8.6%	27.2	57.7%	15.9	33.7%	47.1	
2035	3.5	7.9%	24.9	56.6%	15.6	35.5%	44.0	
2040	3.2	7.9%	21.7	53.2%	15.8	38.9%	40.7	
2045	2.9	7.7%	19.2	51.2%	15.4	41.1%	37.5	
2050	2.5	7.1%	17.5	50.6%	14.6	42.3%	34.6	

※図表 3-8-3 は、図表 3-8-1 と 3-8-2 の数値を表として示したもの

単位：千人

図表 3 - 8 - 4 【元八王子地域】人口ピラミッド



図表3 - 8 - 5 【元八王子地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	1.2	1.1	0.6	0.5	0.3	0.3
5～9	1.2	1.2	0.6	0.6	0.4	0.4
10～14	1.2	1.1	0.9	0.8	0.5	0.5
15～19	1.3	1.2	1.2	1.2	0.6	0.5
20～24	1.3	1.2	1.2	1.2	0.6	0.6
25～29	1.4	1.4	1.2	1.1	0.6	0.6
30～34	1.7	1.6	1.1	1.0	0.8	0.7
35～39	2.2	1.9	1.1	1.0	1.1	1.0
40～44	1.9	1.7	1.1	1.0	1.1	1.0
45～49	1.7	1.5	1.4	1.3	1.1	1.1
50～54	1.4	1.4	1.7	1.7	1.1	1.0
55～59	1.7	1.8	2.2	2.0	1.1	1.0
60～64	2.3	2.3	1.8	1.7	1.0	1.0
65～69	2.1	2.2	1.5	1.5	1.3	1.3
70～74	1.8	1.7	1.2	1.3	1.5	1.6
75～79	1.1	1.2	1.3	1.7	1.7	1.9
80～84	0.6	0.8	1.5	2.0	1.2	1.5
85～89	0.2	0.6	0.9	1.6	0.7	1.1
90～94	0.1	0.3	0.3	0.8	0.2	0.6
95～99	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.2
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	26.4	26.3	22.9	24.2	16.8	17.8

単位：千人

※図表 3 - 8 - 5 は、図表 3 - 8 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【元八王子地域】

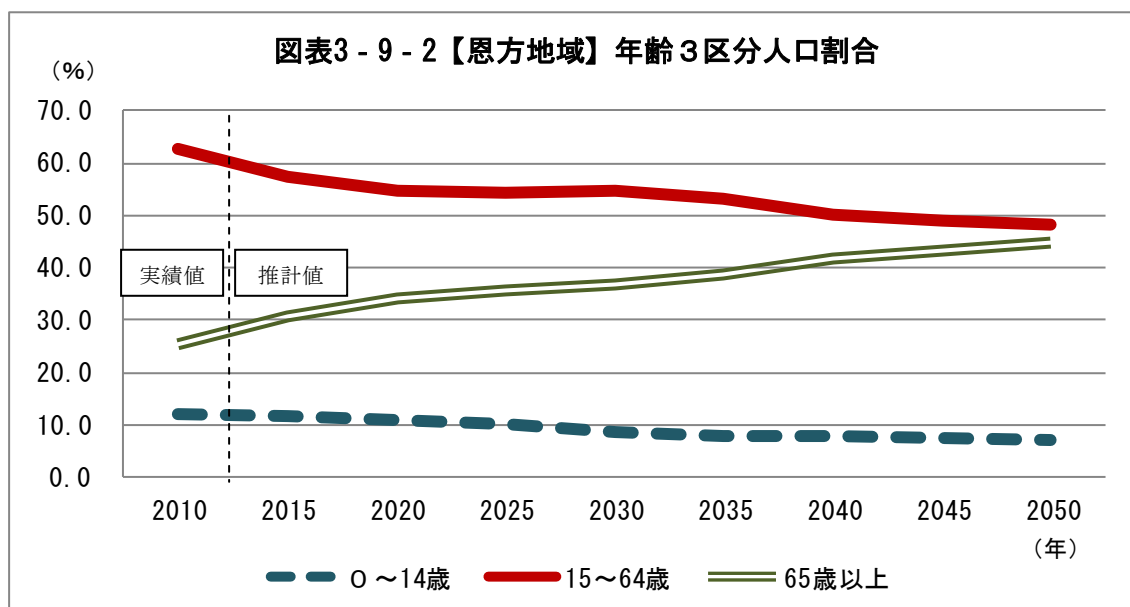
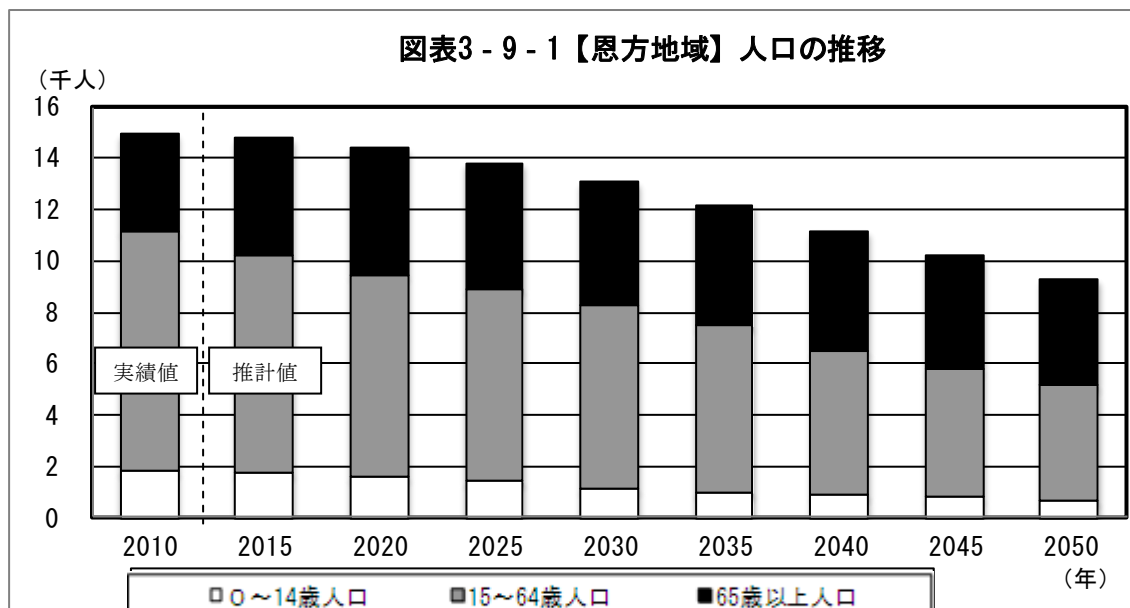
◆人口構造の特徴

元八王子地域の総人口は減少していく(図表 3 - 8 - 1)。年少人口比率と生産年齢人口比率は低下し、老年人口比率は2020(平成 32)年に 30%を、2045(平成 57)年に 40%を上回るなど上昇していく(図表 3 - 8 - 2)。人口ピラミッドも2050(平成 62)年には逆三角形を描く(図表 3 - 8 - 4)。

◆推計時の調整

なし

(2) 恩方地域（西部地域）



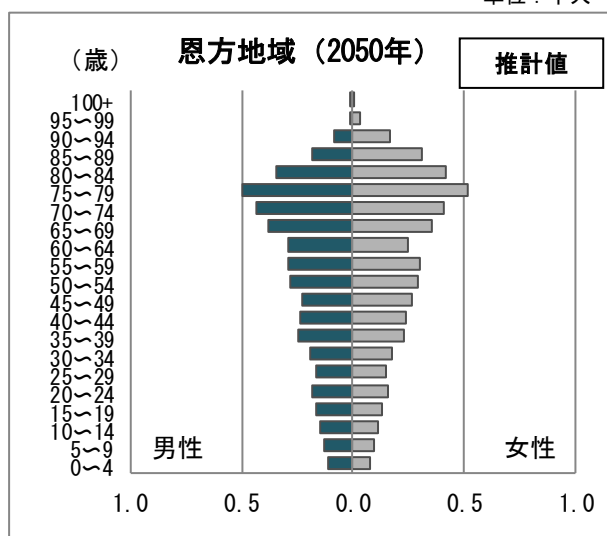
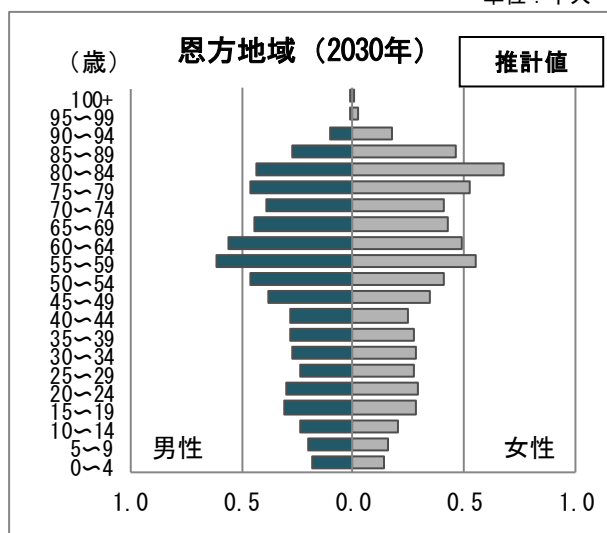
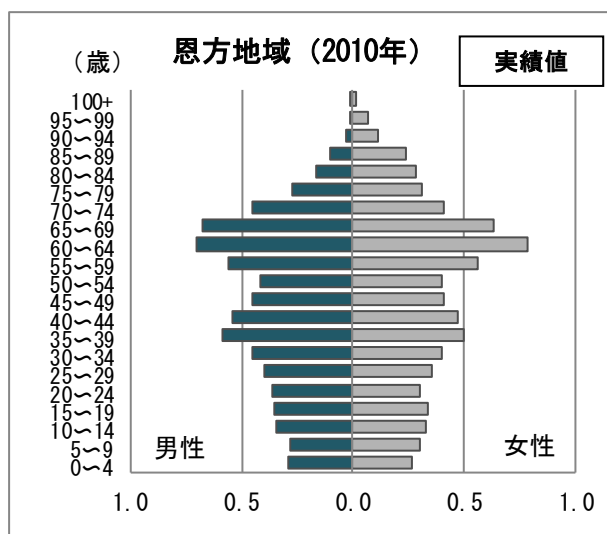
図表3 - 9 - 3【恩方地域】人口と人口比率の詳細

年	0～14		15～64		65～		合計	
2010	1.8	12.1%	9.4	62.6%	3.8	25.3%	14.9	実績値
2015	1.7	11.7%	8.5	57.4%	4.6	30.9%	14.8	推計値
2020	1.6	11.1%	7.9	54.6%	4.9	34.3%	14.4	
2025	1.4	10.1%	7.5	54.4%	4.9	35.5%	13.8	
2030	1.1	8.6%	7.1	54.7%	4.8	36.7%	13.1	
2035	1.0	8.0%	6.5	53.3%	4.7	38.8%	12.2	
2040	0.9	7.8%	5.6	50.2%	4.7	41.9%	11.2	
2045	0.8	7.6%	5.0	48.9%	4.4	43.5%	10.2	
2050	0.7	7.1%	4.5	48.1%	4.2	44.7%	9.3	

※図表 3 - 9 - 3 は、図表 3 - 9 - 1
と 3 - 9 - 2 の数値を表として示
したもの

単位：千人

図表 3 - 9 - 4 【恩方地域】人口ピラミッド



図表3 - 9 - 5 【恩方地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1
5～9	0.3	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1
10～14	0.3	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1
15～19	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1
20～24	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2
25～29	0.4	0.4	0.2	0.3	0.2	0.1
30～34	0.5	0.4	0.3	0.3	0.2	0.2
35～39	0.6	0.5	0.3	0.3	0.2	0.2
40～44	0.5	0.5	0.3	0.2	0.2	0.2
45～49	0.5	0.4	0.4	0.3	0.2	0.3
50～54	0.4	0.4	0.5	0.4	0.3	0.3
55～59	0.6	0.6	0.6	0.5	0.3	0.3
60～64	0.7	0.8	0.6	0.5	0.3	0.3
65～69	0.7	0.6	0.4	0.4	0.4	0.4
70～74	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
75～79	0.3	0.3	0.5	0.5	0.5	0.5
80～84	0.2	0.3	0.4	0.7	0.3	0.4
85～89	0.1	0.2	0.3	0.5	0.2	0.3
90～94	0.0	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2
95～99	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	7.5	7.5	6.4	6.6	4.6	4.7

単位：千人

※図表 3-9-5 は、図表 3-9-4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【恩方地域】

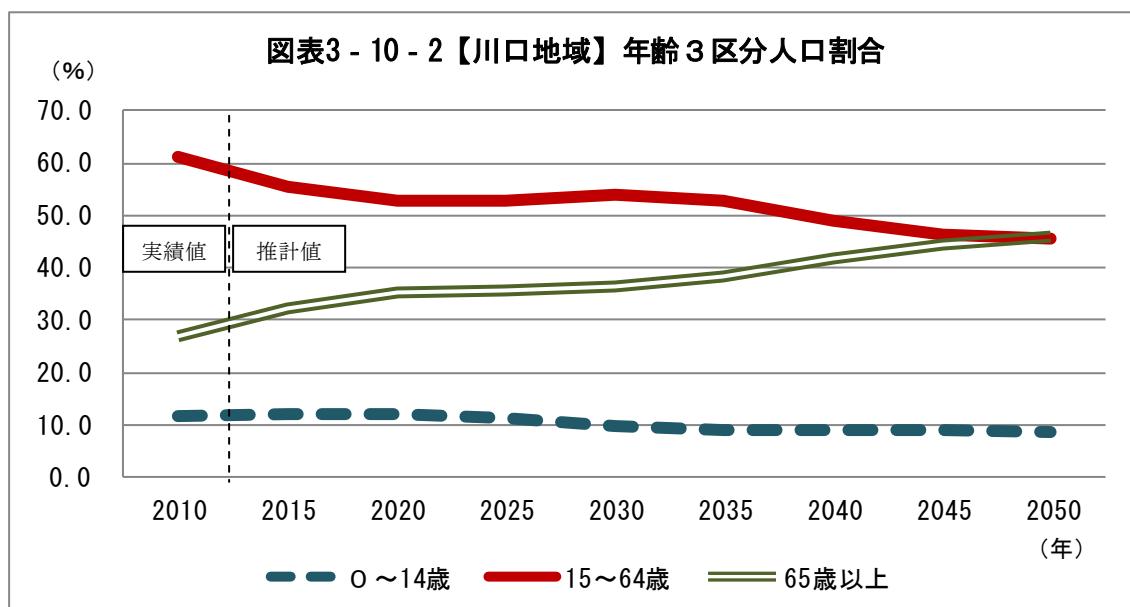
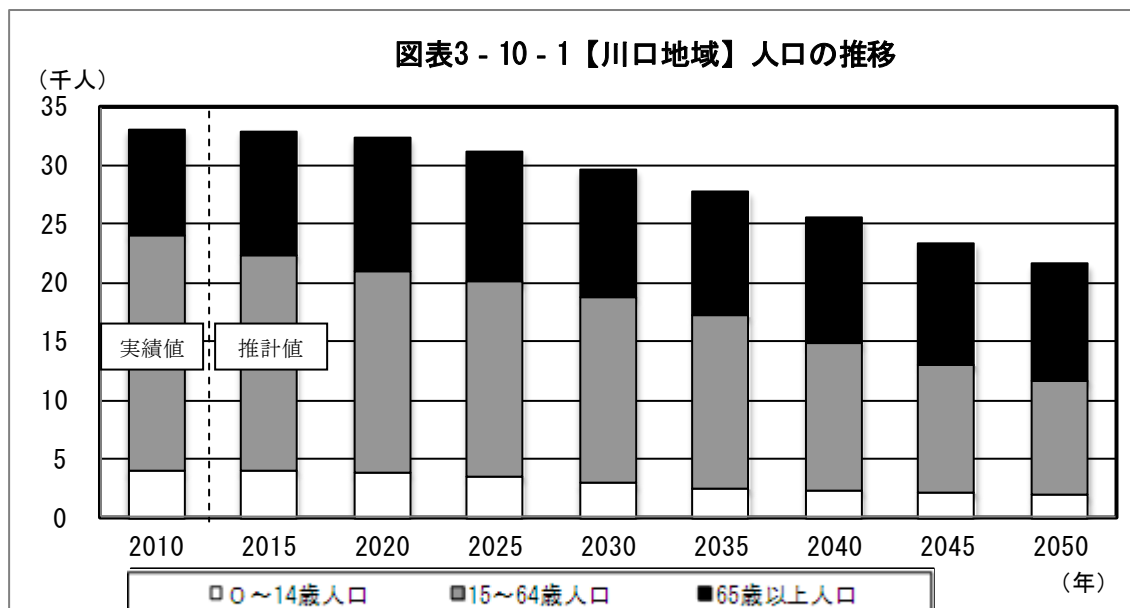
◆人口構造の特徴

恩方地域の総人口は減少していく（図表 3 - 9 - 1）。生産年齢人口比率は 2045（平成 57）年に 50%を下回る一方、老年人口比率は上昇し、2015（平成 27）年には 30%を、2040（平成 52）年には 40%を上回る（図表 3 - 9 - 2）。人口ピラミッドは 2050（平成 62）年にかけて逆三角形を描く（図表 3 - 9 - 4）。

◆推計時の調整

なし

(3) 川口地域（西部地域）



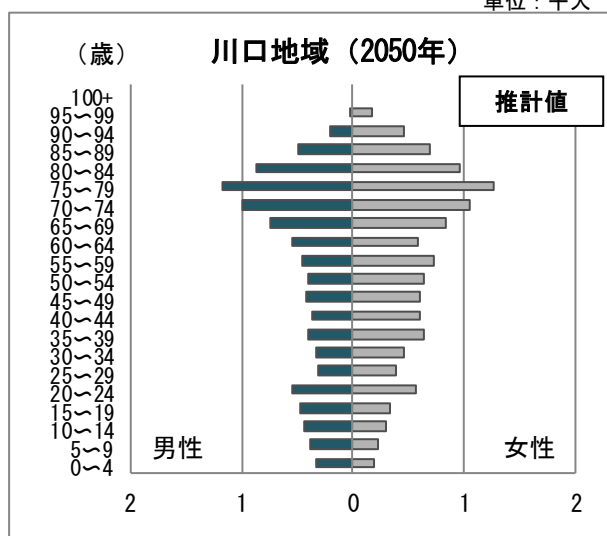
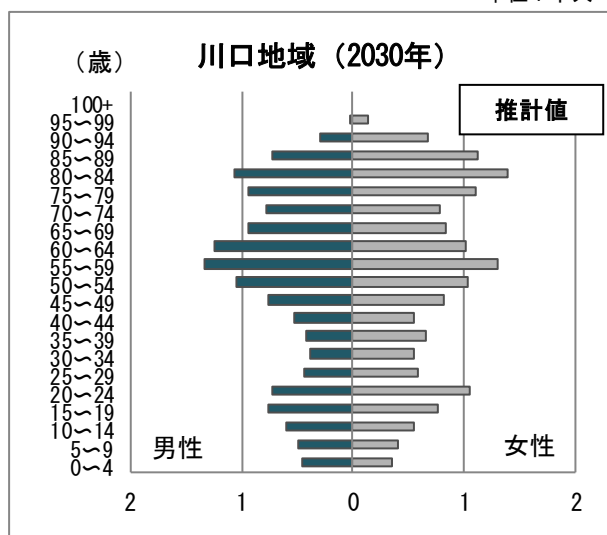
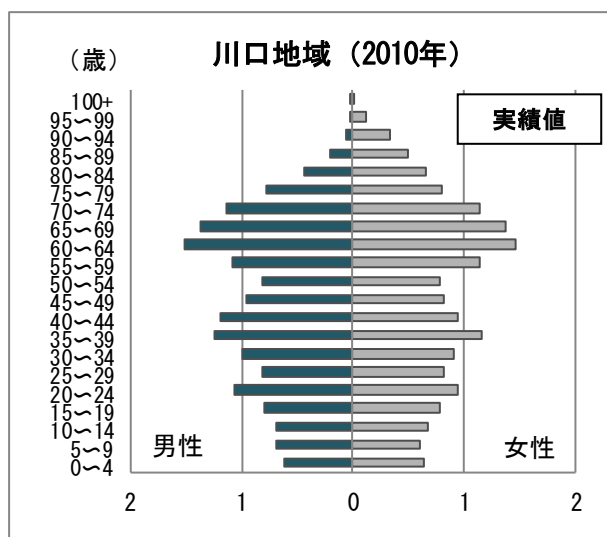
図表3 - 10 - 3【川口地域】人口と人口比率の詳細

年	0~14		15~64		65~		合計	
2010	3.9	11.8%	20.2	61.1%	8.9	27.1%	33.0	実績値
2015	4.0	12.2%	18.3	55.5%	10.6	32.3%	32.9	推計値
2020	3.9	11.9%	17.1	52.9%	11.4	35.2%	32.3	
2025	3.5	11.2%	16.5	53.0%	11.2	35.8%	31.2	
2030	2.9	9.6%	16.0	53.9%	10.8	36.5%	29.6	
2035	2.5	8.9%	14.7	52.8%	10.6	38.2%	27.8	
2040	2.3	9.0%	12.5	49.0%	10.7	42.0%	25.5	
2045	2.1	9.0%	10.9	46.5%	10.4	44.5%	23.4	
2050	1.9	8.7%	9.8	45.4%	9.9	45.9%	21.6	

※図表3 - 10 - 3は、図表3 - 10 - 1
と3 - 10 - 2の数値を表として示
したもの

単位：千人

図表 3 - 10 - 4 【川口地域】人口ピラミッド



図表 3 - 10 - 5 【川口地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	0.6	0.6	0.5	0.3	0.3	0.2
5～9	0.7	0.6	0.5	0.4	0.4	0.2
10～14	0.7	0.7	0.6	0.6	0.4	0.3
15～19	0.8	0.8	0.8	0.8	0.5	0.3
20～24	1.1	0.9	0.7	1.0	0.5	0.6
25～29	0.8	0.8	0.4	0.6	0.3	0.4
30～34	1.0	0.9	0.4	0.6	0.3	0.5
35～39	1.2	1.2	0.4	0.7	0.4	0.6
40～44	1.2	0.9	0.5	0.5	0.4	0.6
45～49	1.0	0.8	0.8	0.8	0.4	0.6
50～54	0.8	0.8	1.0	1.0	0.4	0.6
55～59	1.1	1.1	1.3	1.3	0.4	0.7
60～64	1.5	1.5	1.2	1.0	0.6	0.6
65～69	1.4	1.4	0.9	0.8	0.7	0.8
70～74	1.1	1.1	0.8	0.8	1.0	1.0
75～79	0.8	0.8	0.9	1.1	1.2	1.3
80～84	0.4	0.6	1.1	1.4	0.9	1.0
85～89	0.2	0.5	0.7	1.1	0.5	0.7
90～94	0.1	0.3	0.3	0.7	0.2	0.5
95～99	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	16.5	16.5	14.0	15.7	9.9	11.7

単位：千人

※図表 3 - 10 - 5 は、図表 3 - 10 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【川口地域】

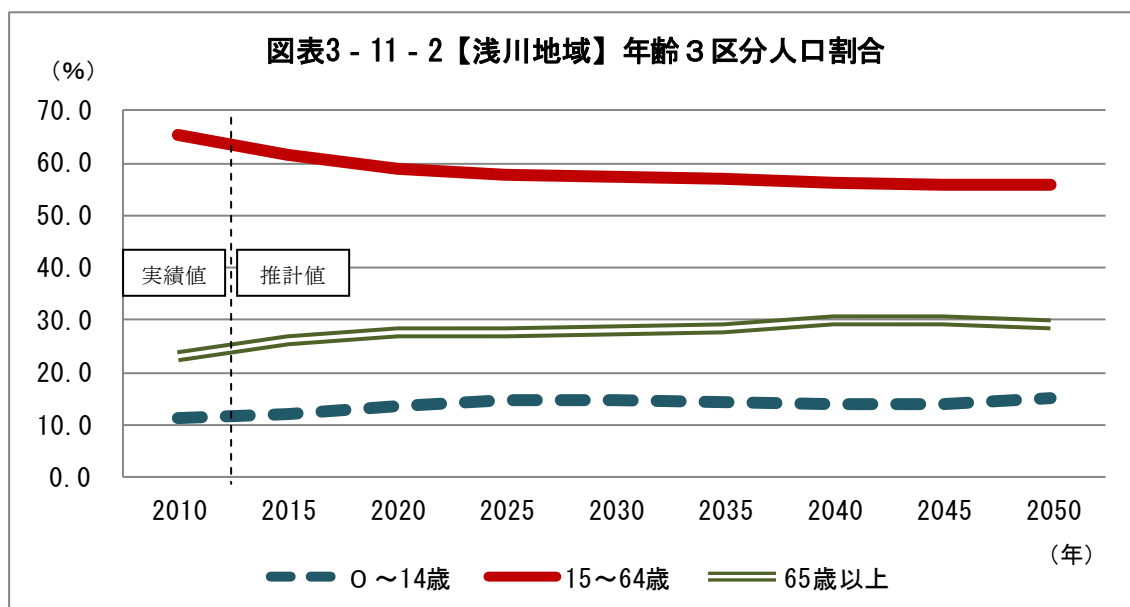
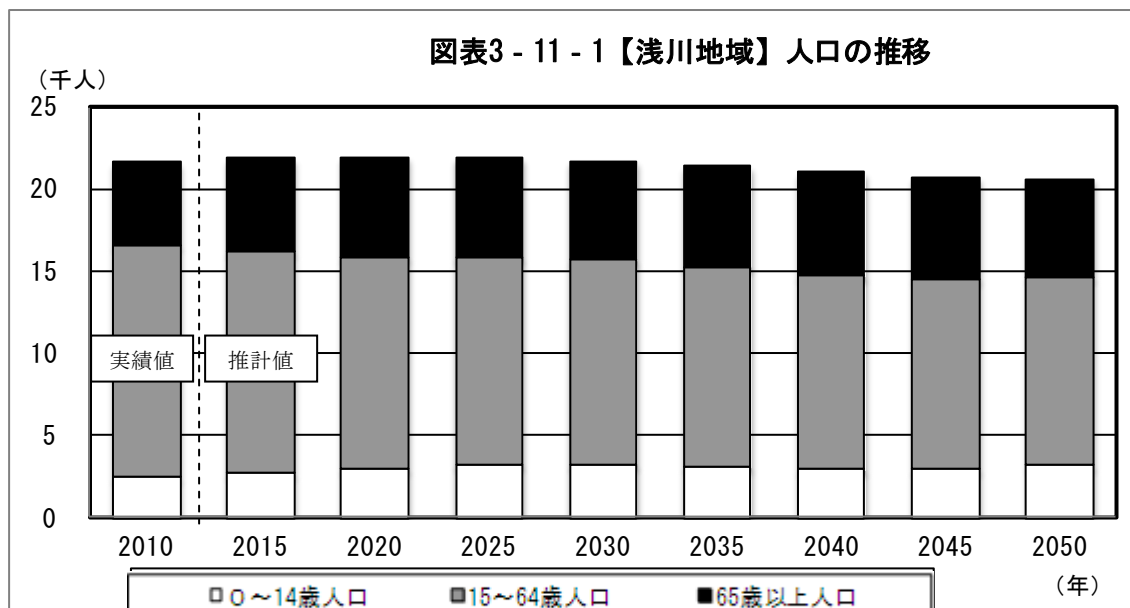
◆人口構造の特徴

川口地域の総人口は減少していく（図表 3 - 10 - 1）。生産年齢人口比率は 2040（平成 52）年に 50%を下回る一方、老年人口比率は急速に上昇し、2015（平成 27）年には 30%を、2040（平成 52）年には 40%を上回る（図表 3 - 10 - 2）。2030 年と 2050 年の人口ピラミッドをみると、20 代～40 代の男性人口が女性人口よりも少なくなることが見て取れる（図表 3 - 10 - 4）。

◆推計時の調整

男女とも近年における 15～19 歳、20～24 歳の転入とその後の転出が他地域と比べて多いため、当該世代の男女人口を調整。

(4) 浅川地域（西南部地域）



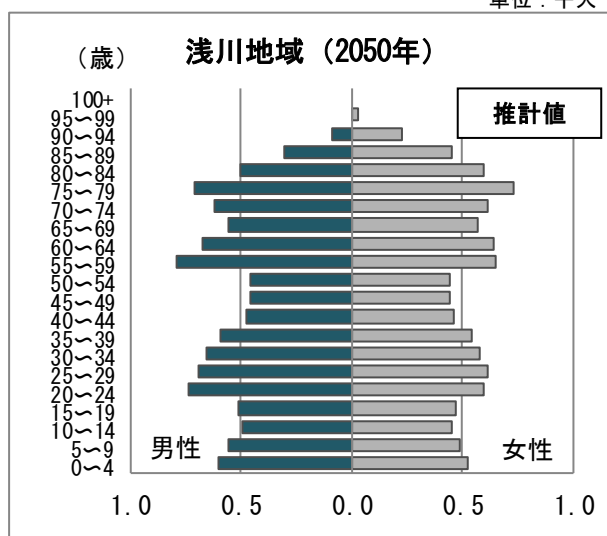
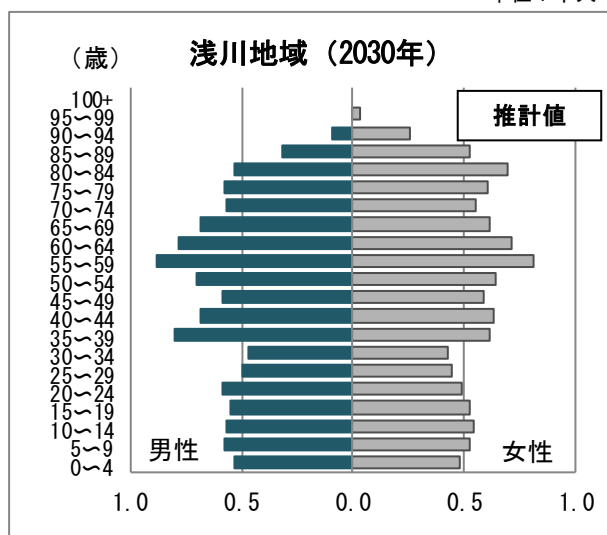
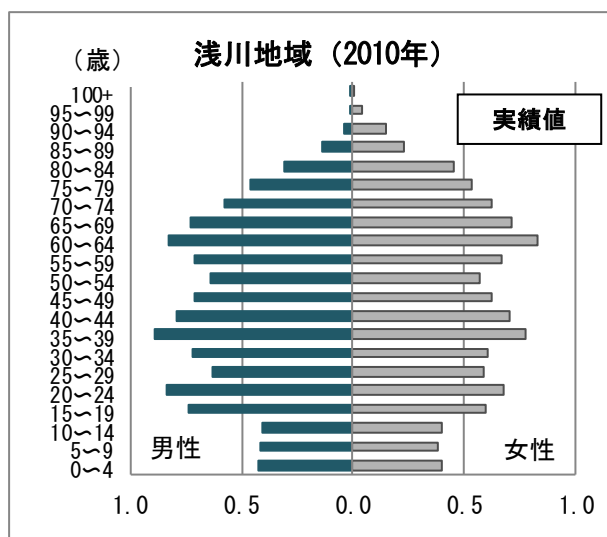
図表3 - 11 - 3【浅川地域】人口と人口比率の詳細

年	0～14		15～64		65～		合計	
2010	2.4	11.2%	14.2	65.5%	5.0	23.2%	21.6	実績値
2015	2.6	12.1%	13.5	61.7%	5.7	26.2%	21.9	推計値
2020	2.9	13.4%	12.9	58.9%	6.1	27.7%	22.0	
2025	3.2	14.8%	12.6	57.6%	6.0	27.6%	21.9	
2030	3.2	14.9%	12.4	57.2%	6.0	27.9%	21.7	
2035	3.1	14.3%	12.2	57.1%	6.1	28.5%	21.4	
2040	2.9	13.8%	11.8	56.2%	6.3	30.0%	21.0	
2045	2.9	14.1%	11.6	56.0%	6.2	29.9%	20.7	
2050	3.1	15.2%	11.5	55.7%	6.0	29.1%	20.6	

単位：千人

※図表3 - 11 - 3は、図表3 - 11 - 1
と3 - 11 - 2の数値を表として示
したもの

図表 3 - 11 - 4 【浅川地域】人口ピラミッド



図表3 - 11 - 5 【浅川地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.6	0.5
5～9	0.4	0.4	0.6	0.5	0.6	0.5
10～14	0.4	0.4	0.6	0.5	0.5	0.5
15～19	0.7	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5
20～24	0.8	0.7	0.6	0.5	0.7	0.6
25～29	0.6	0.6	0.5	0.4	0.7	0.6
30～34	0.7	0.6	0.5	0.4	0.7	0.6
35～39	0.9	0.8	0.8	0.6	0.6	0.5
40～44	0.8	0.7	0.7	0.6	0.5	0.5
45～49	0.7	0.6	0.6	0.6	0.5	0.4
50～54	0.6	0.6	0.7	0.6	0.5	0.4
55～59	0.7	0.7	0.9	0.8	0.8	0.6
60～64	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.6
65～69	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6
70～74	0.6	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6
75～79	0.5	0.5	0.6	0.6	0.7	0.7
80～84	0.3	0.5	0.5	0.7	0.5	0.6
85～89	0.1	0.2	0.3	0.5	0.3	0.4
90～94	0.0	0.1	0.1	0.3	0.1	0.2
95～99	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	11.0	10.6	11.0	10.7	10.5	10.1

単位：千人

※図表 3 - 11 - 5 は、図表 3 - 11 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【浅川地域】

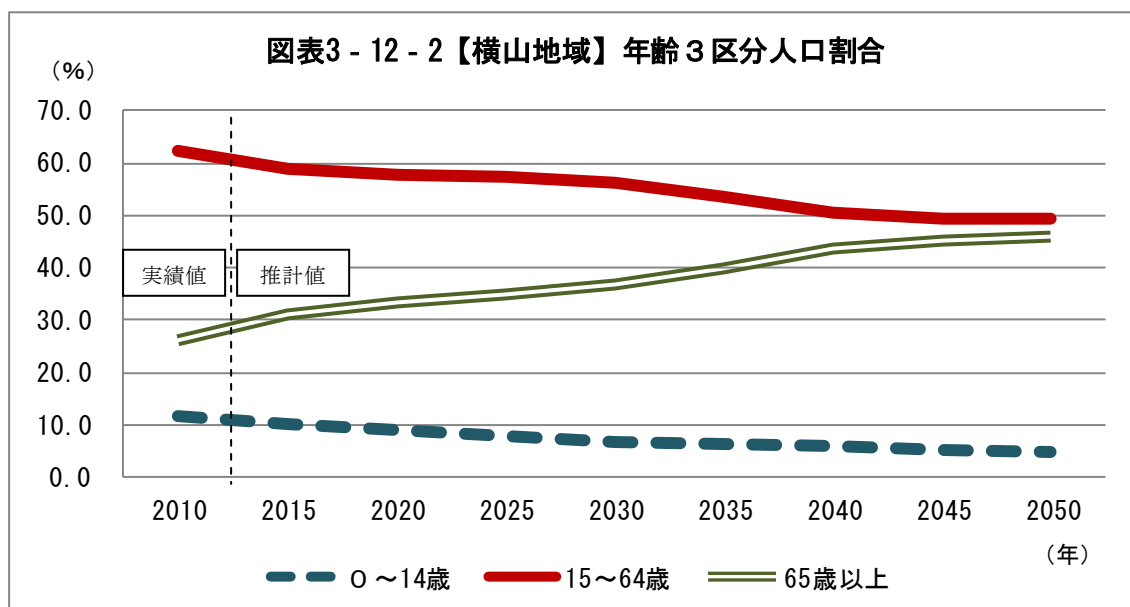
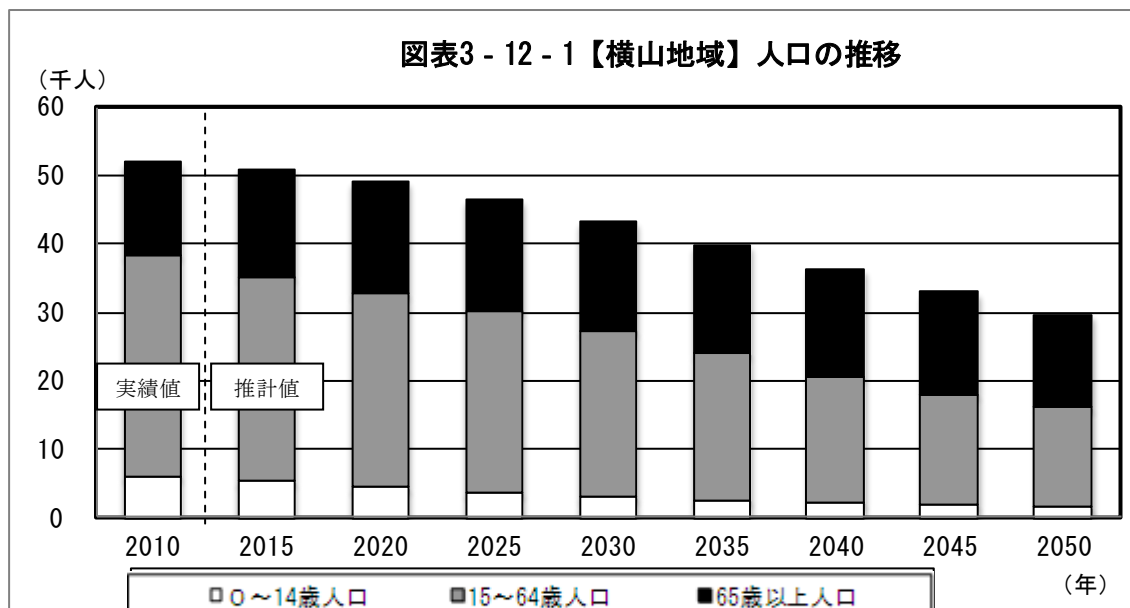
◆人口構造の特徴

浅川地域の総人口は概ね横ばいとなる（図表 3 - 11 - 1）。生産年齢人口比率の低下と老年人口比率の上昇がみられる一方、年少人口比率は上昇していく（図表 3 - 11 - 2）。2050（平成 62）年の人口ピラミッドは、他地域と比べて若年層が多い安定的な形となっている（図表 3 - 11 - 4）。

◆推計時の調整

なし

(5) 横山地域（西南部地域）



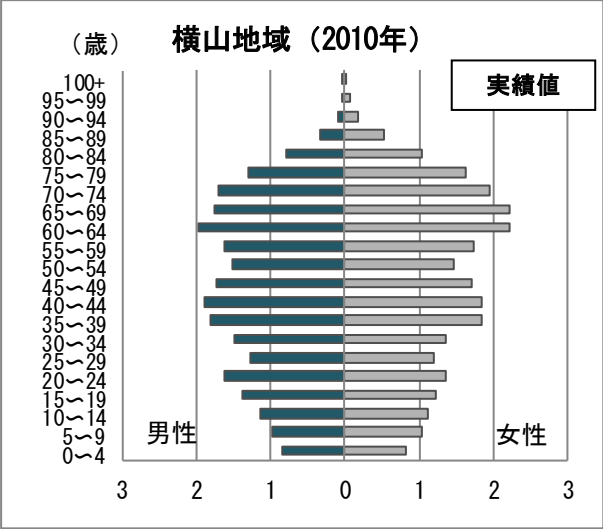
図表3 - 12 - 3【横山地域】人口と人口比率の詳細

年	0～14		15～64		65～		合計	
2010	6.0	11.5%	32.3	62.3%	13.6	26.3%	51.9	実績値
2015	5.2	10.2%	30.0	58.8%	15.8	31.0%	50.9	推計値
2020	4.3	8.8%	28.3	57.7%	16.4	33.5%	49.0	
2025	3.6	7.7%	26.6	57.5%	16.1	34.8%	46.3	
2030	2.9	6.8%	24.3	56.3%	16.0	37.0%	43.2	
2035	2.5	6.3%	21.3	53.7%	15.9	40.0%	39.8	
2040	2.1	5.9%	18.4	50.6%	15.8	43.5%	36.3	
2045	1.7	5.3%	16.2	49.4%	14.9	45.3%	32.9	
2050	1.4	4.6%	14.7	49.5%	13.6	45.8%	29.6	

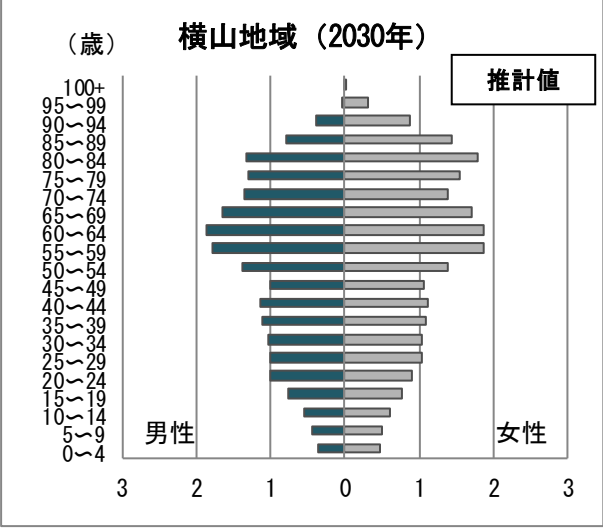
※図表3 - 12 - 3は、図表3 - 12 - 1
と3 - 12 - 2の数値を表として示
したもの

単位：千人

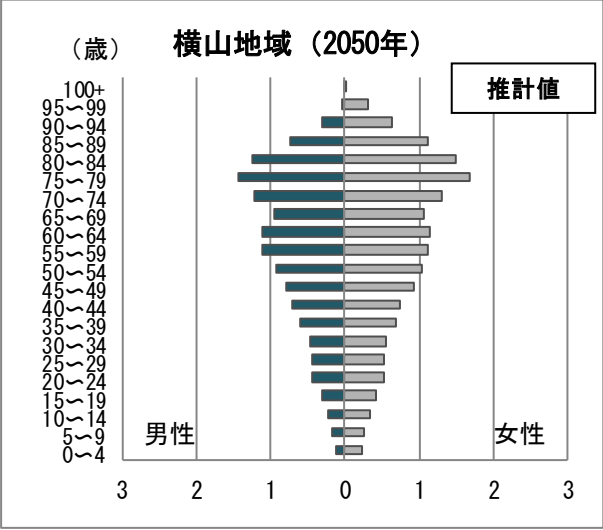
図表 3 - 12 - 4【横山地域】人口ピラミッド



単位：千人



単位：千人



単位：千人

図表3 - 12 - 5【横山地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	0.9	0.8	0.4	0.5	0.1	0.2
5～9	1.0	1.0	0.4	0.5	0.2	0.3
10～14	1.2	1.1	0.5	0.6	0.2	0.3
15～19	1.4	1.2	0.8	0.8	0.3	0.4
20～24	1.6	1.4	1.0	0.9	0.4	0.5
25～29	1.3	1.2	1.0	1.0	0.5	0.5
30～34	1.5	1.4	1.0	1.0	0.5	0.6
35～39	1.8	1.8	1.1	1.1	0.6	0.7
40～44	1.9	1.8	1.1	1.1	0.7	0.7
45～49	1.7	1.7	1.0	1.1	0.8	0.9
50～54	1.5	1.5	1.4	1.4	0.9	1.0
55～59	1.6	1.7	1.8	1.9	1.1	1.1
60～64	2.0	2.2	1.9	1.9	1.1	1.2
65～69	1.8	2.2	1.7	1.7	1.0	1.1
70～74	1.7	1.9	1.3	1.4	1.2	1.3
75～79	1.3	1.6	1.3	1.5	1.4	1.7
80～84	0.8	1.1	1.3	1.8	1.2	1.5
85～89	0.3	0.5	0.8	1.5	0.8	1.1
90～94	0.1	0.2	0.4	0.9	0.3	0.6
95～99	0.0	0.1	0.0	0.3	0.0	0.3
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	25.3	26.5	20.3	22.9	13.5	16.2

単位：千人

※図表 3 - 12 - 5 は、図表 3 - 12 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【横山地域】

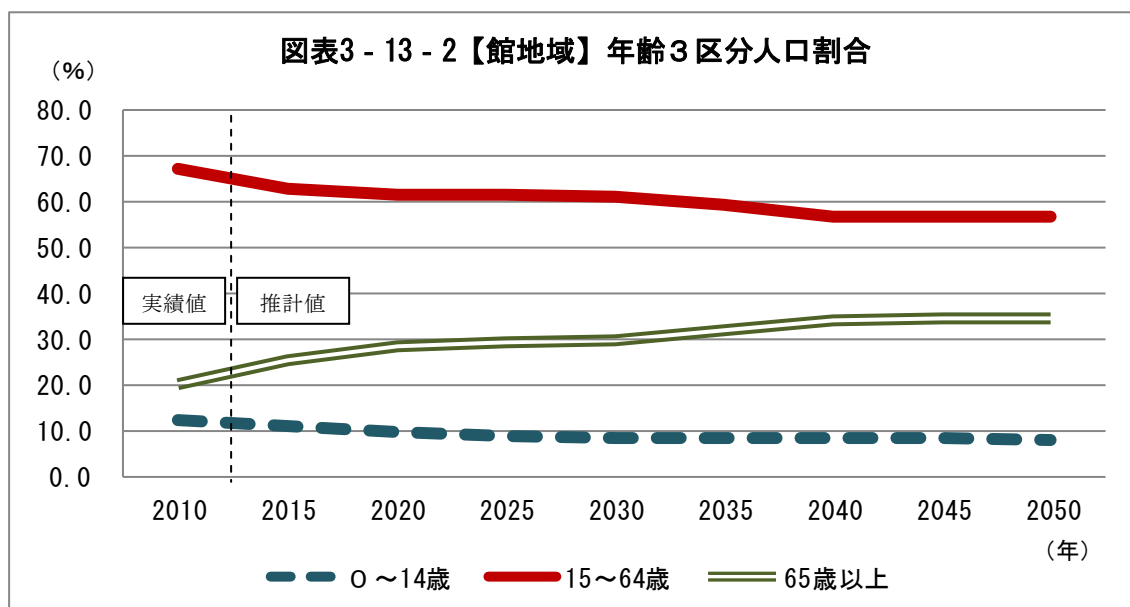
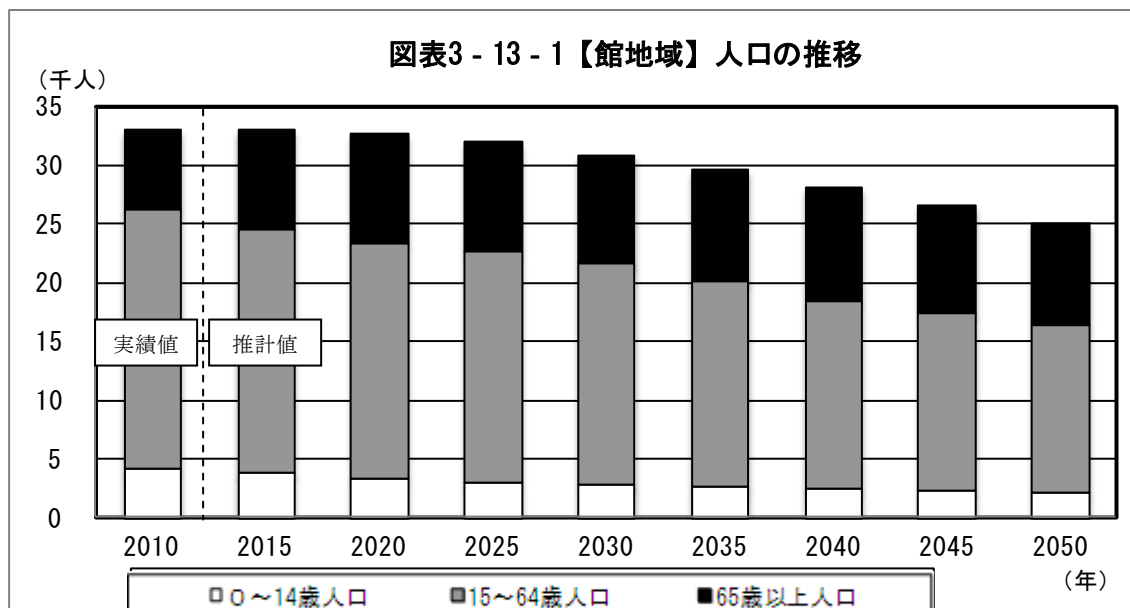
◆人口構造の特徴

横山地域の総人口は減少していく（図表 3 - 12 - 1）。年少人口比率と生産年齢人口比率が低下し、生産年齢人口比率は 2045（平成 57）年に 50%を下回る。また、老年人口比率は上昇し、2015（平成 27）年に 30%を、2035（平成 47）年に 40%を上回る（図表 3 - 12 - 2）。人口ピラミッドは、2050（平成 62）年にかけて逆三角形へと変化していく（図表 3 - 12 - 4）。

◆推計時の調整

なし

(6) 館地域（西南部地域）



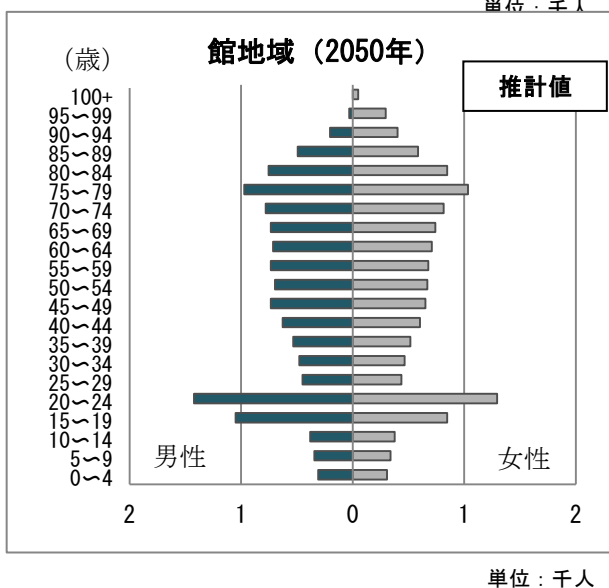
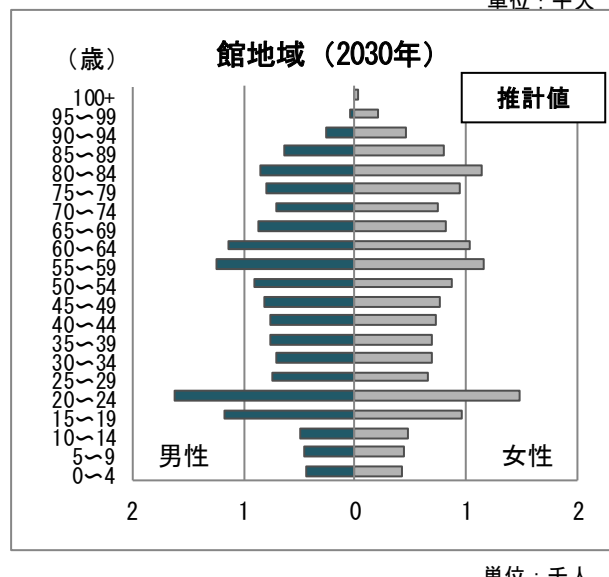
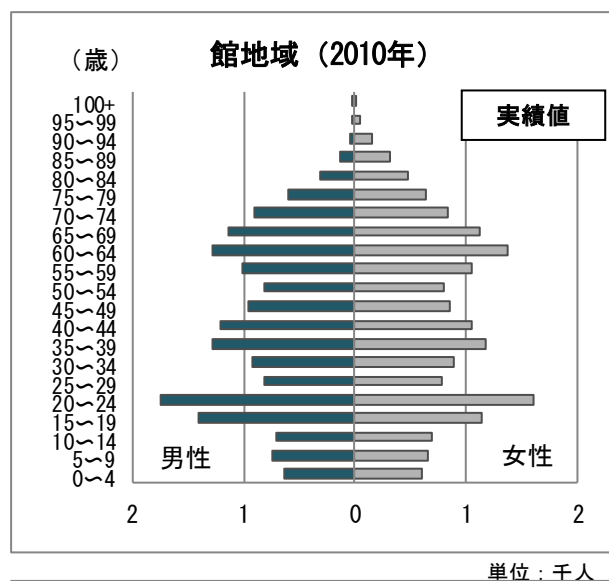
図表3-13-3【館地域】人口と人口比率の詳細

年	0～14		15～64		65～		合計	
2010	4.1	12.3%	22.2	67.3%	6.7	20.4%	33.0	実績値
2015	3.7	11.3%	20.8	63.1%	8.5	25.6%	33.0	推計値
2020	3.3	10.0%	20.1	61.6%	9.3	28.4%	32.7	
2025	2.9	9.1%	19.7	61.6%	9.3	29.3%	31.9	
2030	2.7	8.7%	18.9	61.2%	9.3	30.1%	30.9	
2035	2.6	8.7%	17.6	59.4%	9.5	32.0%	29.6	
2040	2.4	8.6%	16.0	57.0%	9.7	34.4%	28.1	
2045	2.3	8.5%	15.1	56.7%	9.3	34.8%	26.6	
2050	2.1	8.2%	14.3	57.0%	8.7	34.8%	25.1	

※図表3-13-3は、図表3-13-1
と3-13-2の数値を表として示
したもの

単位：千人

図表 3 - 13 - 4 【館地域】人口ピラミッド



図表3 - 13 - 5 【館地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	0.6	0.6	0.4	0.4	0.3	0.3
5～9	0.7	0.7	0.5	0.4	0.3	0.3
10～14	0.7	0.7	0.5	0.5	0.4	0.4
15～19	1.4	1.1	1.2	1.0	1.0	0.8
20～24	1.8	1.6	1.6	1.5	1.4	1.3
25～29	0.8	0.8	0.7	0.7	0.4	0.4
30～34	0.9	0.9	0.7	0.7	0.5	0.5
35～39	1.3	1.2	0.8	0.7	0.5	0.5
40～44	1.2	1.1	0.8	0.7	0.6	0.6
45～49	1.0	0.9	0.8	0.8	0.7	0.7
50～54	0.8	0.8	0.9	0.9	0.7	0.7
55～59	1.0	1.0	1.2	1.2	0.7	0.7
60～64	1.3	1.4	1.1	1.0	0.7	0.7
65～69	1.1	1.1	0.9	0.8	0.7	0.7
70～74	0.9	0.8	0.7	0.8	0.8	0.8
75～79	0.6	0.6	0.8	0.9	1.0	1.0
80～84	0.3	0.5	0.8	1.1	0.8	0.8
85～89	0.1	0.3	0.6	0.8	0.5	0.6
90～94	0.0	0.2	0.3	0.5	0.2	0.4
95～99	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.3
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
合計	16.7	16.3	15.4	15.5	12.4	12.7

単位：千人

※図表 3 - 13 - 5 は、図表 3 - 13 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【館地域】

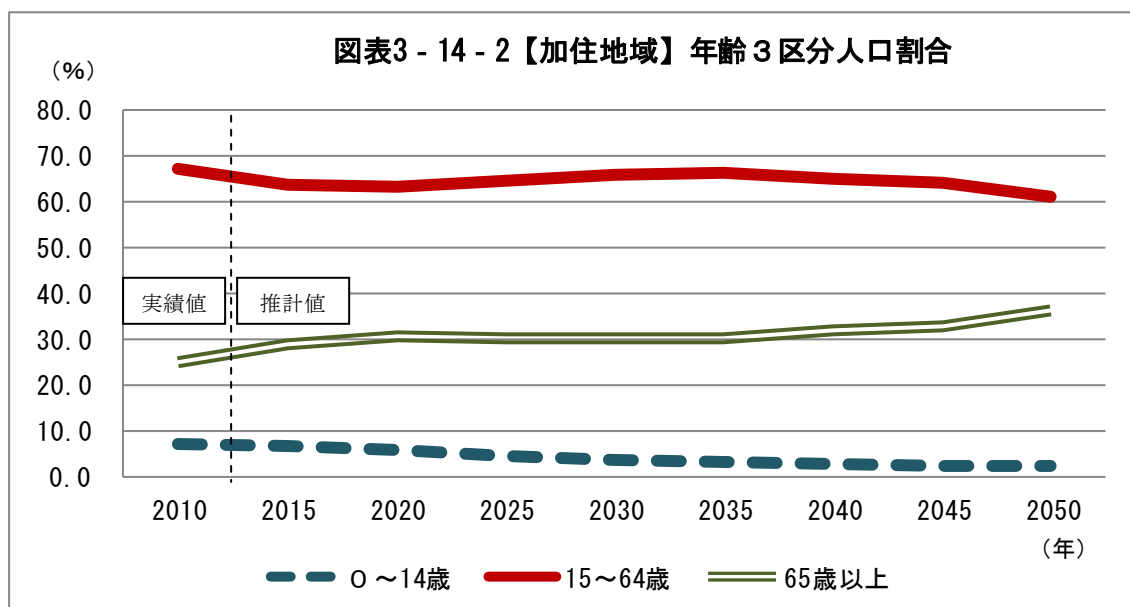
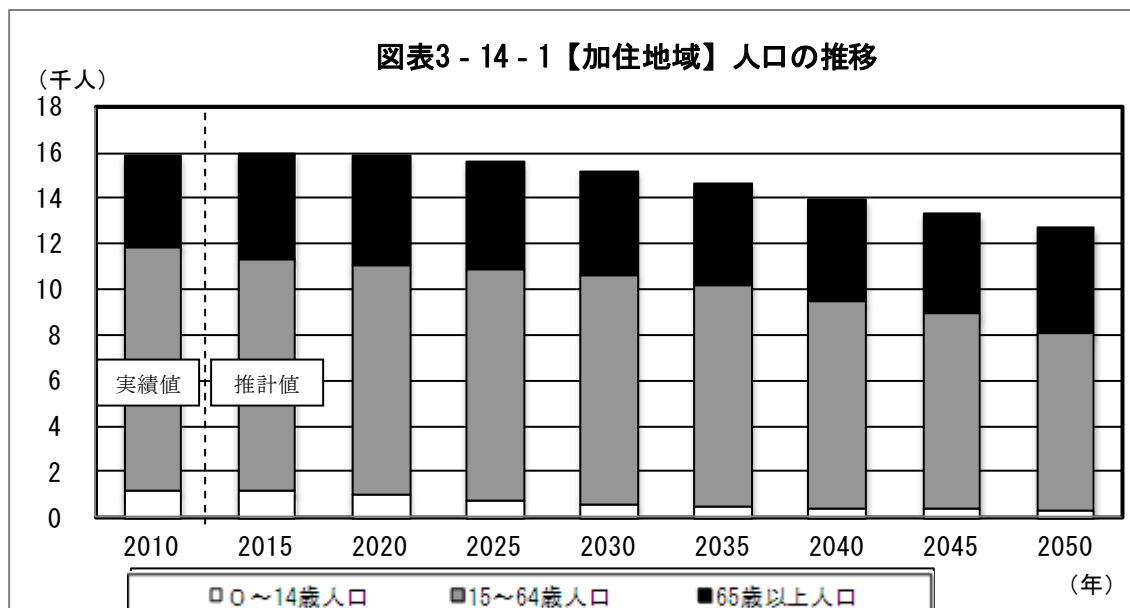
◆人口構造の特徴

館地域の総人口は緩やかながら減少していく（図表 3 - 13 - 1）。年少人口比率と生産年齢人口比率は緩やかに低下し老年人口比率は上昇していく（図表 3 - 13 - 2）。人口ピラミッドからは学生世代の転入と 20 代後半での転出が見取れる（図表 3 - 13 - 4）。

◆推計時の調整

男女とも近年における 15～19 歳、20～24 歳の転入とその後の転出が他地域と比べて多いため、当該世代の男女人口を調整。

(7) 加住地域（北部地域）



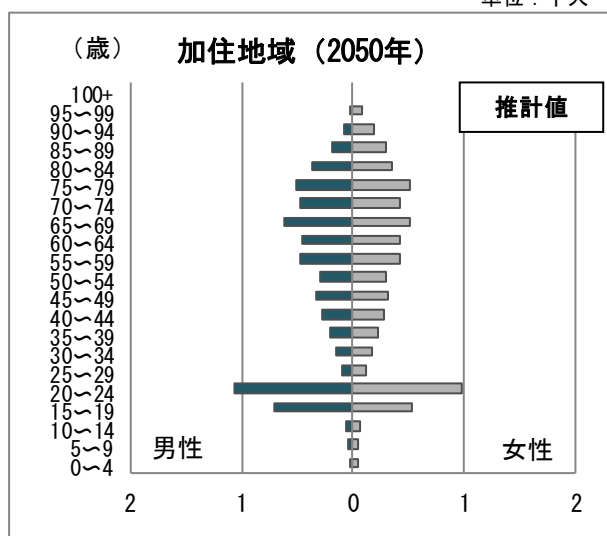
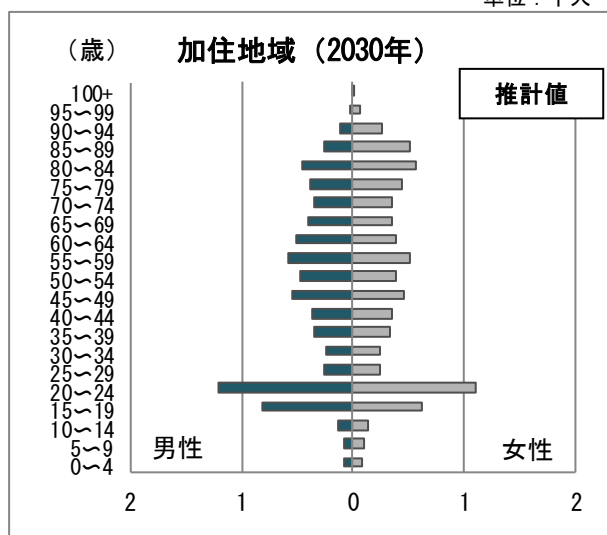
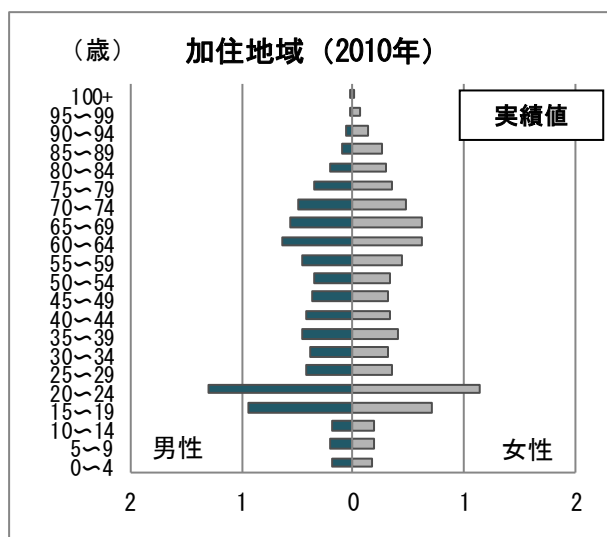
図表3 - 14 - 3 【加住地域】人口と人口比率の詳細

年	0～14		15～64		65～		合計	
2010	1.1	7.2%	10.7	67.5%	4.0	25.3%	15.8	実績値
2015	1.1	7.0%	10.2	63.9%	4.6	29.1%	15.9	推計値
2020	0.9	6.0%	10.1	63.5%	4.8	30.6%	15.8	
2025	0.7	4.8%	10.1	64.8%	4.7	30.4%	15.6	
2030	0.6	3.8%	10.0	66.0%	4.6	30.1%	15.2	
2035	0.5	3.2%	9.7	66.4%	4.4	30.3%	14.6	
2040	0.4	2.9%	9.1	65.0%	4.5	32.1%	13.9	
2045	0.3	2.6%	8.6	64.3%	4.4	33.1%	13.3	
2050	0.3	2.3%	7.8	61.3%	4.6	36.4%	12.7	

単位：千人

※図表3 - 14 - 3 は、図表3 - 14 - 1
と3 - 14 - 2の数値を表として示
したもの

図表 3 - 14 - 4【加住地域】人口ピラミッド



図表3 - 14 - 5【加住地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	0.2	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0
5～9	0.2	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1
10～14	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1
15～19	0.9	0.7	0.8	0.6	0.7	0.5
20～24	1.3	1.1	1.2	1.1	1.1	1.0
25～29	0.4	0.4	0.3	0.2	0.1	0.1
30～34	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2
35～39	0.5	0.4	0.4	0.3	0.2	0.2
40～44	0.4	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3
45～49	0.4	0.3	0.5	0.5	0.3	0.3
50～54	0.3	0.3	0.5	0.4	0.3	0.3
55～59	0.5	0.4	0.6	0.5	0.5	0.4
60～64	0.6	0.6	0.5	0.4	0.5	0.4
65～69	0.6	0.6	0.4	0.4	0.6	0.5
70～74	0.5	0.5	0.3	0.4	0.5	0.4
75～79	0.3	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5
80～84	0.2	0.3	0.5	0.6	0.4	0.4
85～89	0.1	0.3	0.3	0.5	0.2	0.3
90～94	0.1	0.1	0.1	0.3	0.1	0.2
95～99	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	8.1	7.8	7.6	7.5	6.4	6.3

単位：千人

※図表 3 - 14 - 5 は、図表 3 - 14 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【加住地域】

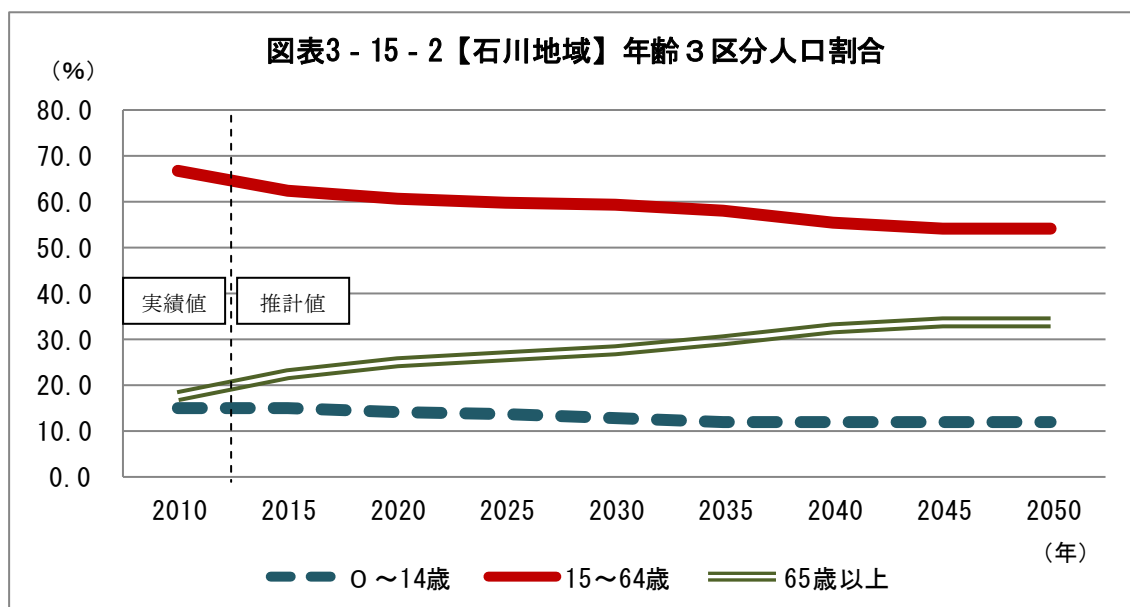
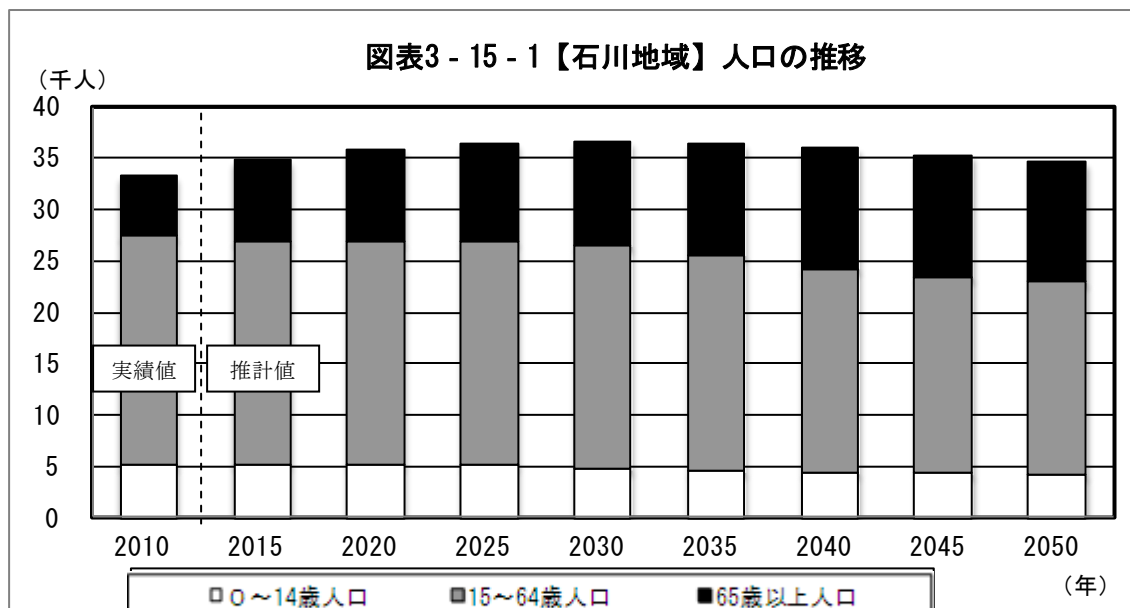
◆人口構造の特徴

加住地域の総人口は減少していく（図表 3 - 14 - 1）。年少人口比率と生産年齢人口比率が低下する一方、老年人口比率は上昇して 2020（平成 32）年には 30% を上回る（図表 3 - 14 - 2）。人口ピラミッドからは学生世代の転入と 20 代後半での転出が見て取れる（図表 3 - 14 - 4）。

◆推計時の調整

男女とも近年における 15～19 歳、20～24 歳の転入とその後の転出が他地域と比べて多いため、当該世代の男女人口を調整。また、開発等による人口の急増地域に関して、DID の人口密度をもとに転入率を調整。

(8) 石川地域（北部地域）



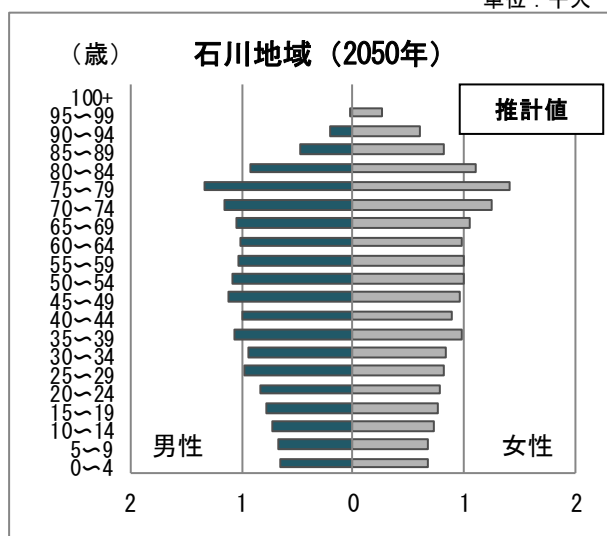
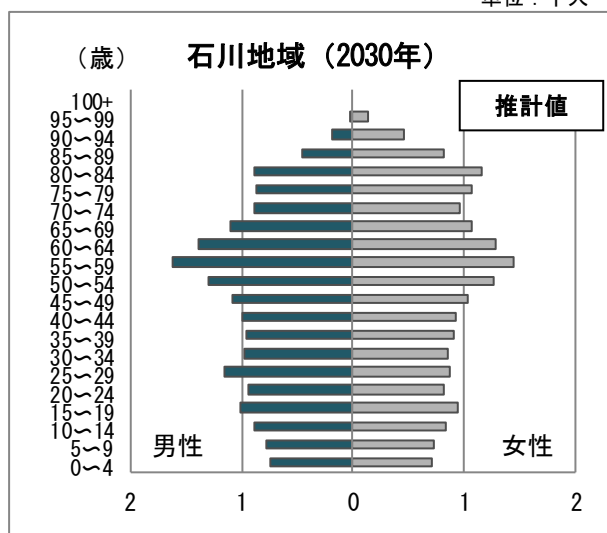
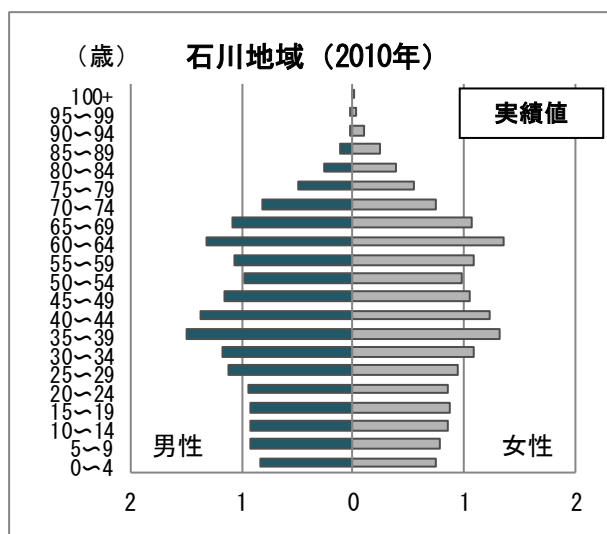
図表3 - 15 - 3【石川地域】人口と人口比率の詳細

年	0～14		15～64		65～		合計	
2010	5.1	15.2%	22.3	67.1%	5.9	17.7%	33.2	実績値
2015	5.2	14.9%	21.8	62.6%	7.8	22.5%	34.8	推計値
2020	5.1	14.3%	21.8	60.7%	9.0	25.0%	35.8	
2025	5.0	13.8%	21.8	59.9%	9.6	26.3%	36.4	
2030	4.7	12.8%	21.8	59.6%	10.1	27.6%	36.5	
2035	4.4	12.2%	21.1	58.0%	10.8	29.7%	36.4	
2040	4.3	12.0%	19.9	55.5%	11.7	32.5%	35.9	
2045	4.2	12.0%	19.2	54.3%	11.9	33.7%	35.3	
2050	4.1	11.9%	18.8	54.3%	11.7	33.7%	34.6	

単位：千人

※図表3 - 15 - 3は、図表3 - 15 - 1
と3 - 15 - 2の数値を表として示
したもの

図表 3 - 15 - 4【石川地域】人口ピラミッド



図表 3 - 15 - 5【石川地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7
5～9	0.9	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7
10～14	0.9	0.9	0.9	0.8	0.7	0.7
15～19	0.9	0.9	1.0	0.9	0.8	0.8
20～24	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	0.8
25～29	1.1	0.9	1.1	0.9	1.0	0.8
30～34	1.2	1.1	1.0	0.9	0.9	0.8
35～39	1.5	1.3	1.0	0.9	1.1	1.0
40～44	1.4	1.2	1.0	0.9	1.0	0.9
45～49	1.2	1.0	1.1	1.0	1.1	1.0
50～54	1.0	1.0	1.3	1.3	1.1	1.0
55～59	1.1	1.1	1.6	1.4	1.0	1.0
60～64	1.3	1.4	1.4	1.3	1.0	1.0
65～69	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.1
70～74	0.8	0.7	0.9	1.0	1.2	1.2
75～79	0.5	0.5	0.9	1.1	1.3	1.4
80～84	0.3	0.4	0.9	1.2	0.9	1.1
85～89	0.1	0.2	0.5	0.8	0.5	0.8
90～94	0.0	0.1	0.2	0.5	0.2	0.6
95～99	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	17.0	16.2	18.2	18.3	17.0	17.6

単位：千人

※図表 3 - 15 - 5 は、図表 3 - 15 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【石川地域】

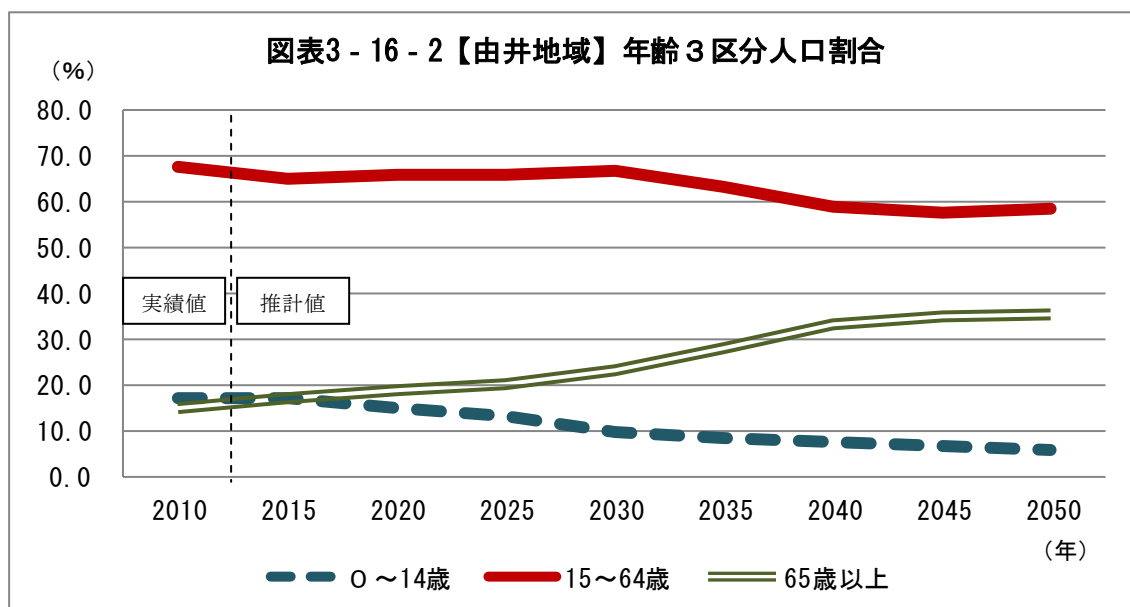
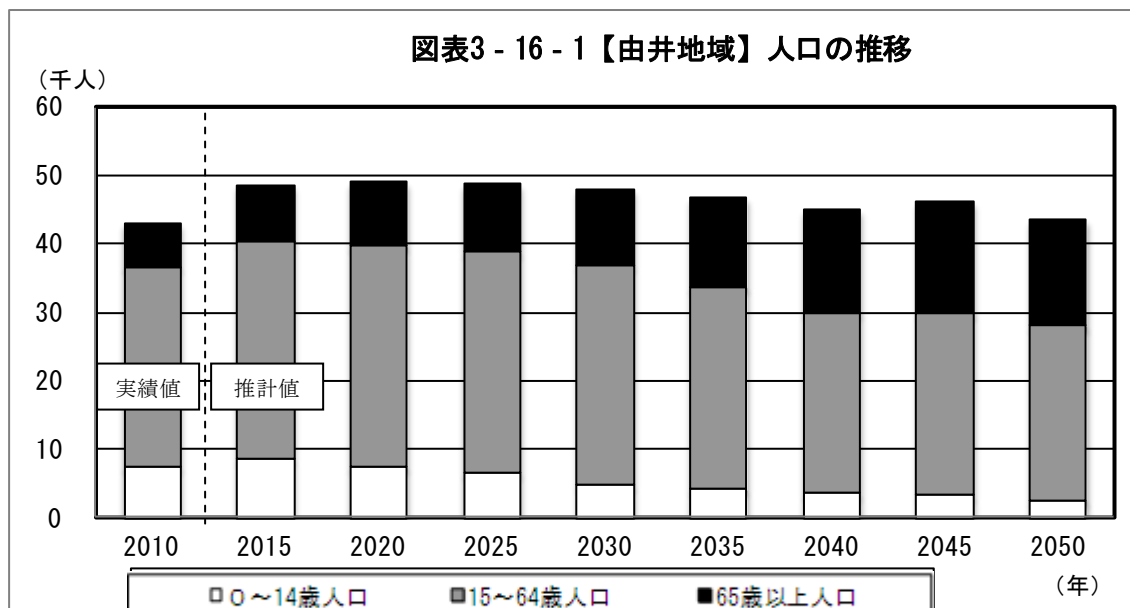
◆人口構造の特徴

石川地域の総人口は 2030（平成 42）年に 3 万 6,500 人でピークを迎えるが、その後も大きくは減少しない（図表 3 - 15 - 1）。年少人口比率と生産年齢人口比率が緩やかに低下し、老年人口比率は上昇していく（図表 3 - 15 - 2）。2050（平成 62）年の人口ピラミッドは、他地域と比べて若年層が多い安定的な形となっている（図表 3 - 15 - 4）。

◆推計時の調整

なし

(9) 由井地域（東南部地域）



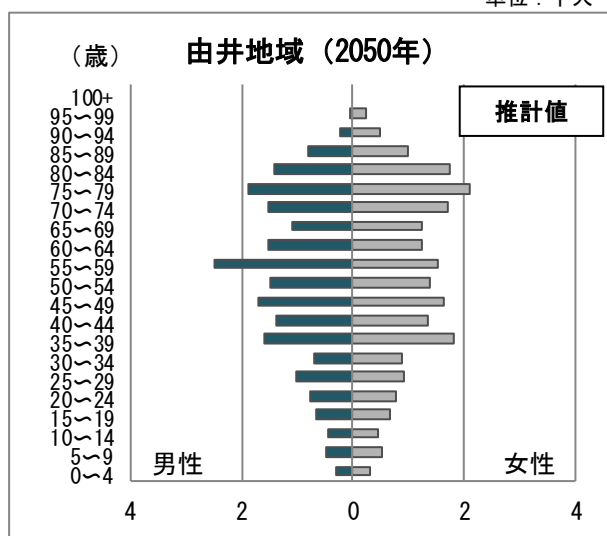
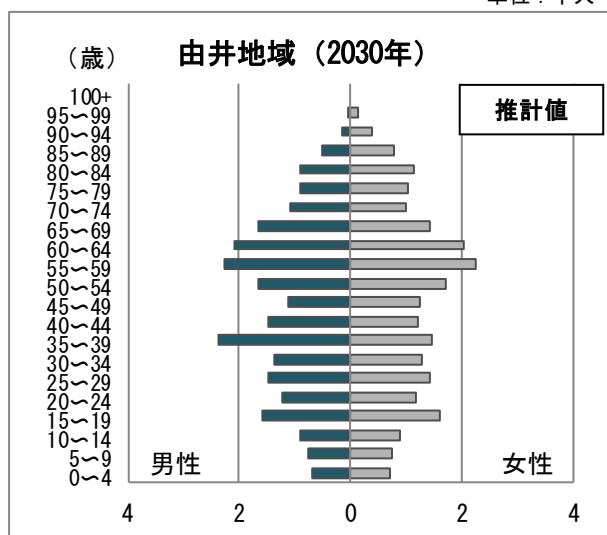
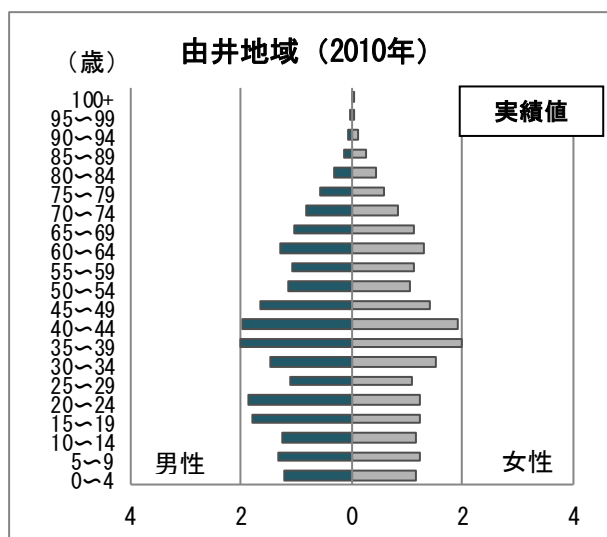
図表3 - 16 - 3【由井地域】人口と人口比率の詳細

年	0～14		15～64		65～		合計	
2010	7.4	17.1%	29.2	68.0%	6.4	14.9%	43.0	実績値
2015	8.5	17.5%	31.7	65.3%	8.4	17.2%	48.6	推計値
2020	7.3	15.0%	32.3	65.9%	9.3	19.0%	48.9	
2025	6.5	13.3%	32.2	66.3%	9.9	20.4%	48.7	
2030	4.7	9.8%	32.1	67.0%	11.1	23.3%	47.9	
2035	4.1	8.7%	29.6	63.4%	13.0	27.9%	46.7	
2040	3.4	7.6%	26.5	59.0%	15.0	33.4%	44.9	
2045	3.2	7.0%	26.7	57.9%	16.2	35.2%	46.1	
2050	2.5	5.7%	25.5	58.6%	15.5	35.7%	43.5	

単位：千人

※図表3 - 16 - 3は、図表3 - 16 - 1
と3 - 16 - 2の数値を表として示
したもの

図表 3 - 16 - 4【由井地域】人口ピラミッド



図表3 - 16 - 5【由井地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	1.2	1.2	0.7	0.7	0.3	0.3
5～9	1.3	1.3	0.8	0.8	0.5	0.5
10～14	1.2	1.2	0.9	0.9	0.4	0.4
15～19	1.8	1.3	1.6	1.6	0.7	0.7
20～24	1.9	1.2	1.2	1.2	0.8	0.8
25～29	1.1	1.1	1.5	1.4	1.0	0.9
30～34	1.5	1.5	1.4	1.3	0.7	0.9
35～39	2.0	2.0	2.4	1.5	1.6	1.8
40～44	2.0	1.9	1.5	1.2	1.4	1.4
45～49	1.6	1.4	1.1	1.2	1.7	1.6
50～54	1.1	1.0	1.6	1.7	1.5	1.4
55～59	1.1	1.1	2.3	2.3	2.5	1.5
60～64	1.3	1.3	2.1	2.0	1.5	1.2
65～69	1.0	1.1	1.6	1.4	1.1	1.2
70～74	0.8	0.8	1.1	1.0	1.5	1.7
75～79	0.6	0.6	0.9	1.1	1.9	2.1
80～84	0.3	0.5	0.9	1.1	1.4	1.8
85～89	0.1	0.3	0.5	0.8	0.8	1.0
90～94	0.0	0.1	0.2	0.4	0.2	0.5
95～99	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	22.0	21.0	24.2	23.7	21.6	21.9

単位：千人

※図表 3 - 16 - 5 は、図表 3 - 16 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【由井地域】

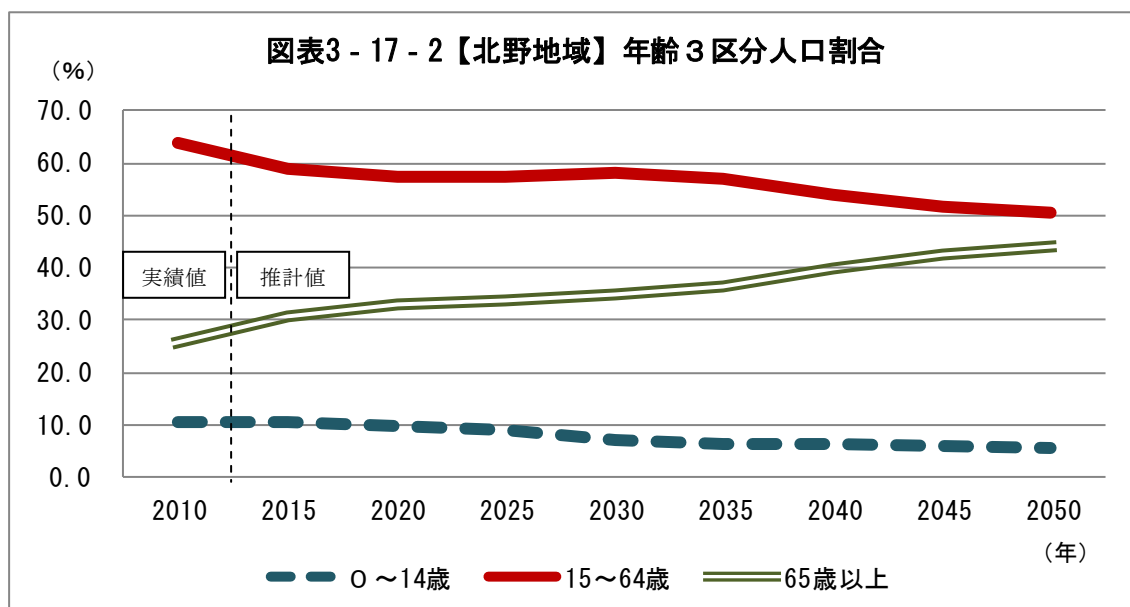
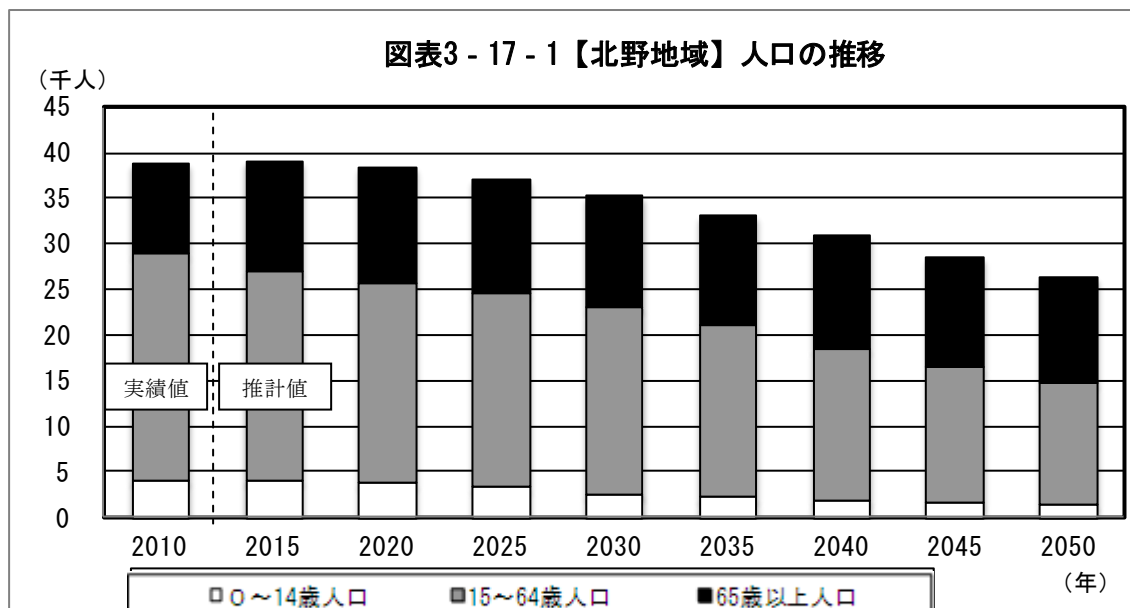
◆人口構造の特徴

由井地域の総人口は 2020（平成 32）年に 4 万 8,900 人でピークとなり、その後大きくは減少しない（図表 3 - 16 - 1）。老年人口比率は上昇し、2010（平成 22）年時点では 14.9%だが、2040（平成 52）年には 30%を上回る（図表 3 - 16 - 2）。人口ピラミッドからは、30 代以下の世代の減少が見て取れる（図表 3 - 16 - 4）。

◆推計時の調整

男女とも近年における 15～19 歳、20～24 歳の転入とその後の転出が他地域と比べて多いため、当該世代の男女人口を調整。また、開発等による人口の急増地域に関して、DID の人口密度をもとに転入率を調整。

(10) 北野地域（東南部地域）



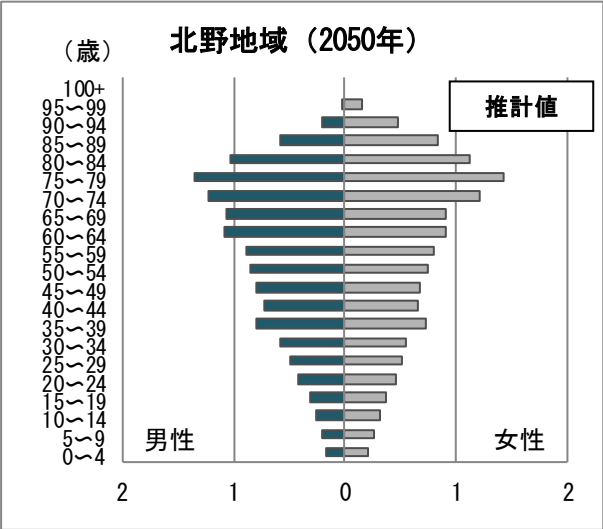
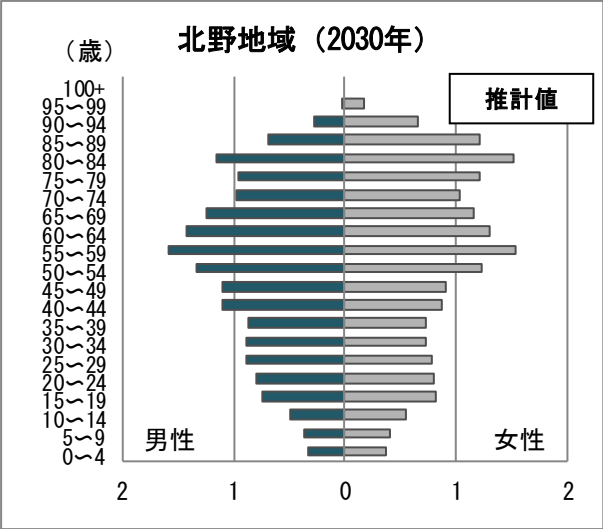
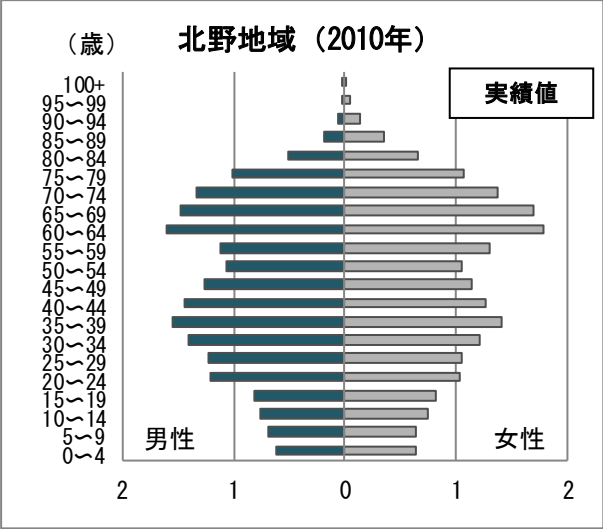
図表3 - 17 - 3【北野地域】人口と人口比率の詳細

年	0~14		15~64		65~		合計	
2010	4.1	10.5%	24.8	63.9%	9.9	25.6%	38.8	実績値
2015	4.1	10.4%	23.0	58.8%	12.0	30.8%	39.0	推計値
2020	3.7	9.7%	22.0	57.3%	12.7	33.0%	38.4	
2025	3.3	8.8%	21.3	57.4%	12.5	33.7%	37.0	
2030	2.5	7.1%	20.4	58.1%	12.2	34.8%	35.2	
2035	2.1	6.4%	18.8	57.0%	12.1	36.6%	33.1	
2040	1.9	6.1%	16.6	53.9%	12.3	40.0%	30.8	
2045	1.7	5.9%	14.7	51.6%	12.1	42.6%	28.5	
2050	1.4	5.4%	13.3	50.5%	11.6	44.0%	26.3	

※図表3 - 17 - 3は、図表3 - 17 - 1
と3 - 17 - 2の数値を表として示
したもの

単位：千人

図表 3 - 17 - 4【北野地域】人口ピラミッド



図表3 - 17 - 5【北野地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	0.6	0.6	0.3	0.4	0.2	0.2
5～9	0.7	0.6	0.4	0.4	0.2	0.3
10～14	0.8	0.7	0.5	0.6	0.3	0.3
15～19	0.8	0.8	0.7	0.8	0.3	0.4
20～24	1.2	1.0	0.8	0.8	0.4	0.5
25～29	1.2	1.0	0.9	0.8	0.5	0.5
30～34	1.4	1.2	0.9	0.7	0.6	0.5
35～39	1.6	1.4	0.9	0.7	0.8	0.7
40～44	1.4	1.3	1.1	0.9	0.7	0.7
45～49	1.3	1.1	1.1	0.9	0.8	0.7
50～54	1.1	1.0	1.3	1.2	0.8	0.7
55～59	1.1	1.3	1.6	1.5	0.9	0.8
60～64	1.6	1.8	1.4	1.3	1.1	0.9
65～69	1.5	1.7	1.2	1.2	1.1	0.9
70～74	1.3	1.4	1.0	1.0	1.2	1.2
75～79	1.0	1.1	1.0	1.2	1.3	1.4
80～84	0.5	0.7	1.1	1.5	1.0	1.1
85～89	0.2	0.4	0.7	1.2	0.6	0.8
90～94	0.1	0.1	0.3	0.7	0.2	0.5
95～99	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	19.4	19.4	17.2	18.0	13.0	13.3

※図表 3 - 17 - 5 は、図表 3 - 17 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【北野地域】

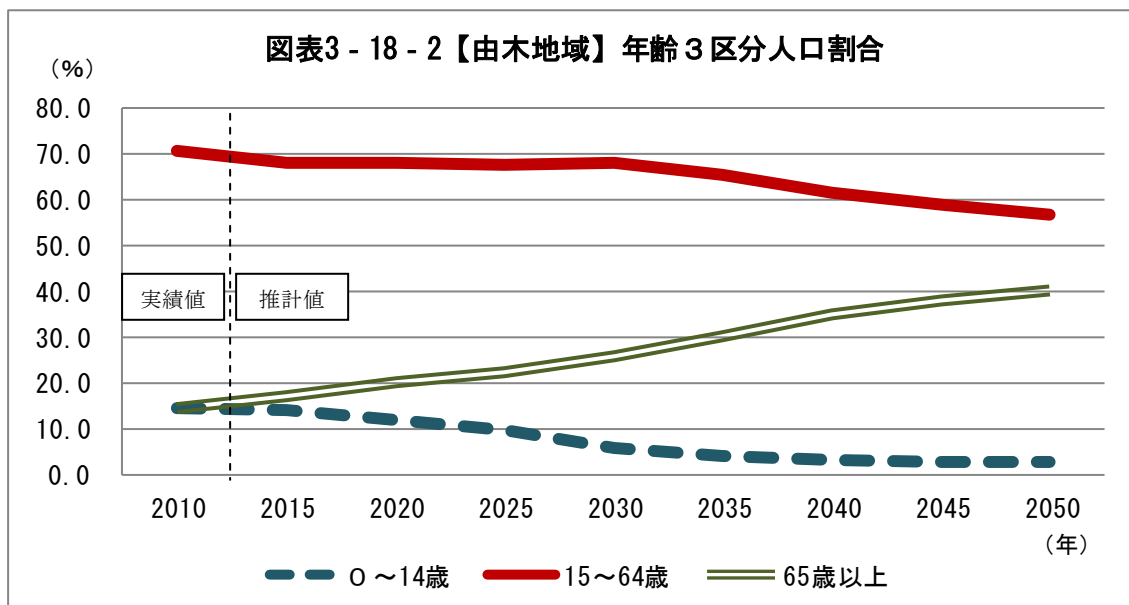
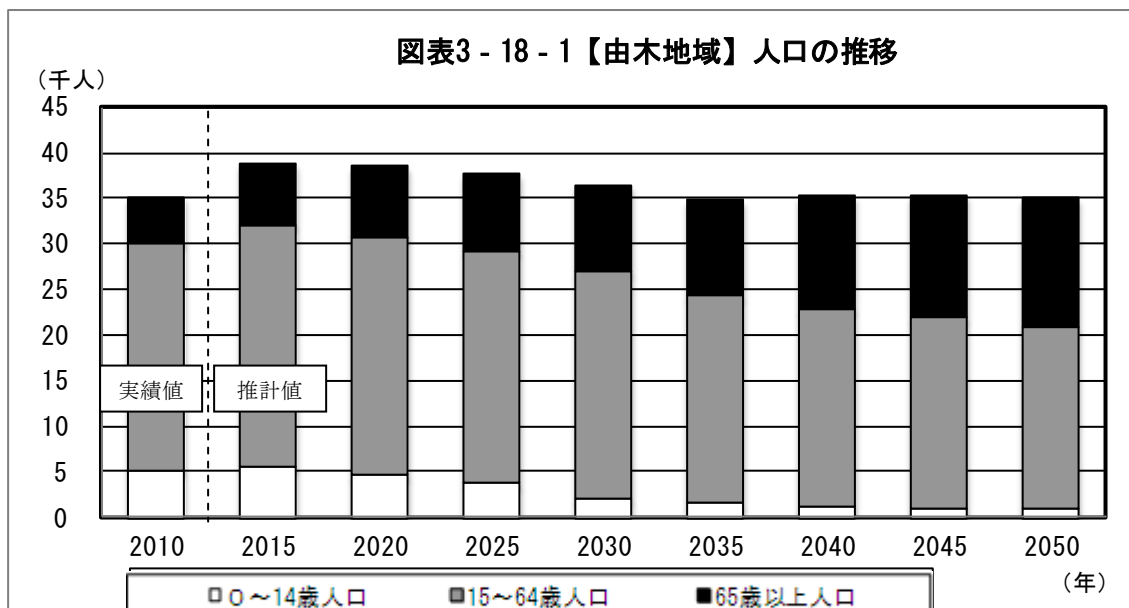
◆人口構造の特徴

北野地域の総人口は 2015（平成 27）年に 3 万 9,000 人でピークを迎え、その後は減少する（図表 3 - 17 - 1）。年少人口比率と生産年齢人口比率が低下する一方で老年人口比率は上昇し、2015（平成 27）年に 30%を、2040（平成 52）年に 40%を上回る（図表 3 - 17 - 2）。人口ピラミッドは 2050（平成 62）年にかけて逆三角形へと変化していく（図表 3 - 17 - 4）。

◆推計時の調整

なし

(11) 由木地域（東部地域）



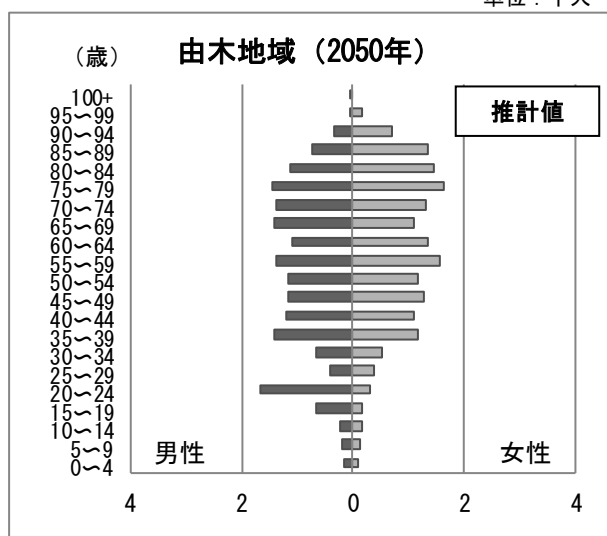
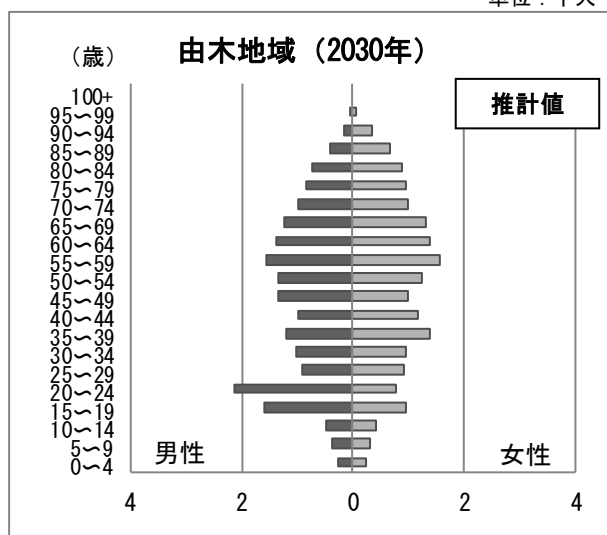
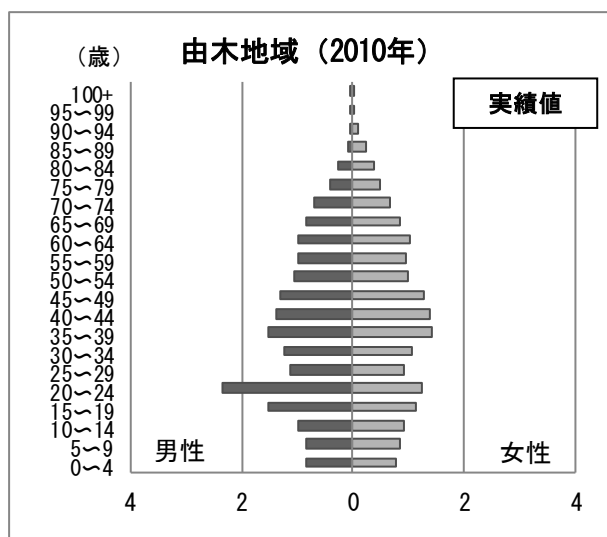
図表3 - 18 - 3【由木地域】人口と人口比率の詳細

年	0~14		15~64		65~		合計	
2010	5.2	14.7%	24.9	70.9%	5.1	14.5%	35.1	実績値
2015	5.5	14.2%	26.5	68.4%	6.7	17.4%	38.7	推計値
2020	4.6	11.9%	26.1	68.0%	7.7	20.1%	38.4	
2025	3.6	9.7%	25.5	67.8%	8.5	22.5%	37.6	
2030	2.1	5.7%	24.8	68.1%	9.5	26.1%	36.4	
2035	1.5	4.2%	22.8	65.6%	10.5	30.2%	34.8	
2040	1.2	3.4%	21.6	61.5%	12.3	35.1%	35.2	
2045	1.0	2.9%	20.8	59.0%	13.5	38.1%	35.3	
2050	1.0	2.7%	19.8	56.8%	14.1	40.5%	35.0	

単位：千人

※図表3 - 18 - 3は、図表3 - 18 - 1
と3 - 18 - 2の数値を表として示
したもの

図表 3 - 18 - 4【由木地域】人口ピラミッド



図表3 - 18 - 5【由木地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	0.8	0.8	0.3	0.2	0.2	0.1
5～9	0.9	0.8	0.4	0.3	0.2	0.1
10～14	1.0	0.9	0.5	0.4	0.2	0.2
15～19	1.5	1.1	1.6	1.0	0.7	0.2
20～24	2.4	1.2	2.1	0.8	1.7	0.3
25～29	1.1	0.9	0.9	0.9	0.4	0.4
30～34	1.2	1.1	1.0	1.0	0.7	0.5
35～39	1.5	1.4	1.2	1.4	1.4	1.2
40～44	1.4	1.4	1.0	1.2	1.2	1.1
45～49	1.3	1.3	1.3	1.0	1.2	1.3
50～54	1.1	1.0	1.3	1.2	1.2	1.2
55～59	1.0	1.0	1.6	1.6	1.4	1.6
60～64	1.0	1.0	1.4	1.4	1.1	1.4
65～69	0.8	0.8	1.2	1.3	1.4	1.1
70～74	0.7	0.6	1.0	1.0	1.4	1.3
75～79	0.4	0.5	0.9	0.9	1.4	1.6
80～84	0.3	0.4	0.7	0.9	1.1	1.4
85～89	0.1	0.2	0.4	0.7	0.7	1.3
90～94	0.0	0.1	0.2	0.3	0.3	0.7
95～99	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	18.5	16.7	19.0	17.5	17.8	17.2

単位：千人

※図表 3 - 18 - 5 は、図表 3 - 18 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【由木地域】

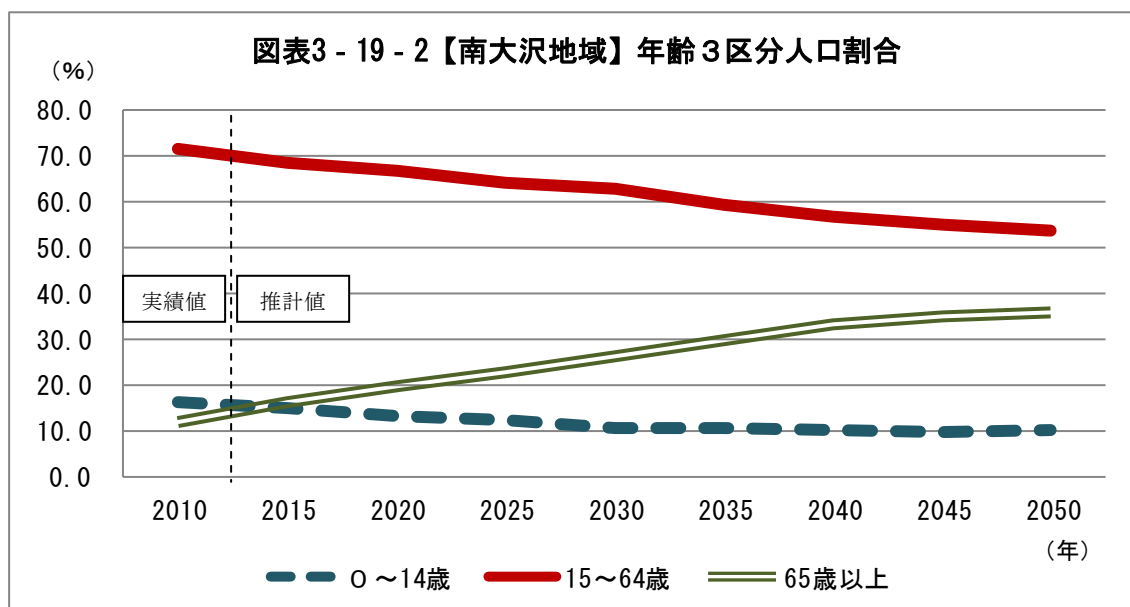
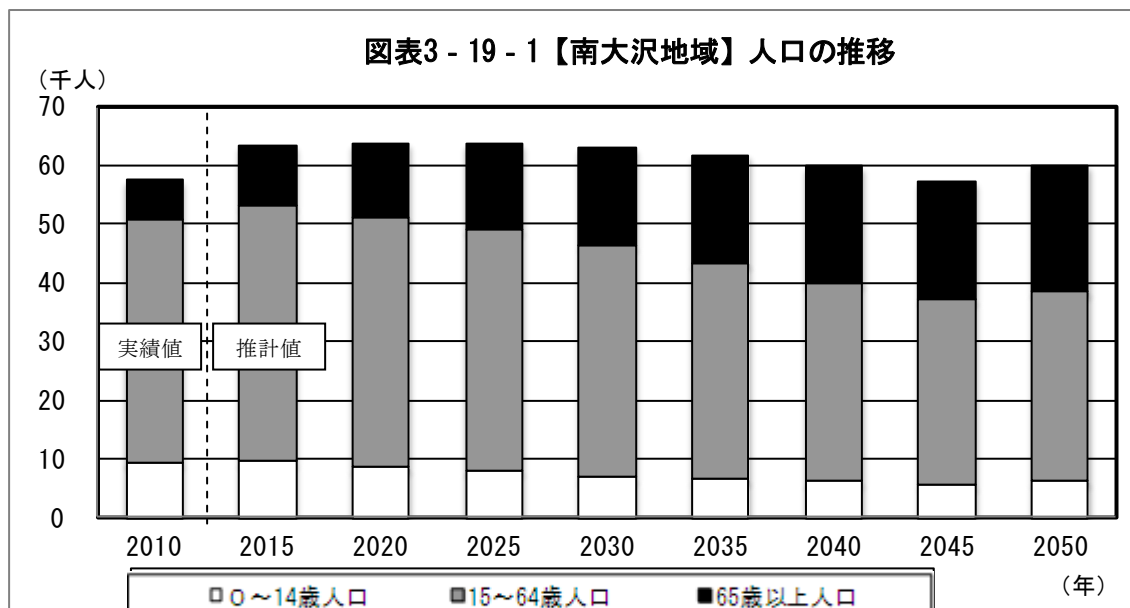
◆人口構造の特徴

由木地域の総人口は 2015（平成 27）年に 3 万 8,700 人でピークとなり、その後大きくは減少しない（図表 3 - 18 - 1）。老年人口比率は 2035（平成 47）年に 30% を、2050（平成 62）年に 40% を上回る（図表 3 - 18 - 2）。人口ピラミッドからは、学生世代の転入と 20 代後半での転出が見て取れる（図表 3 - 18 - 4）。

◆推計時の調整

男女とも近年における 15～19 歳、20～24 歳の転入とその後の転出が他地域と比べて多いため、当該世代の男女人口を調整。また、開発等による人口の急増地域に関して、DID の人口密度をもとに転入率を調整。

(12) 南大沢地域（東部地域）



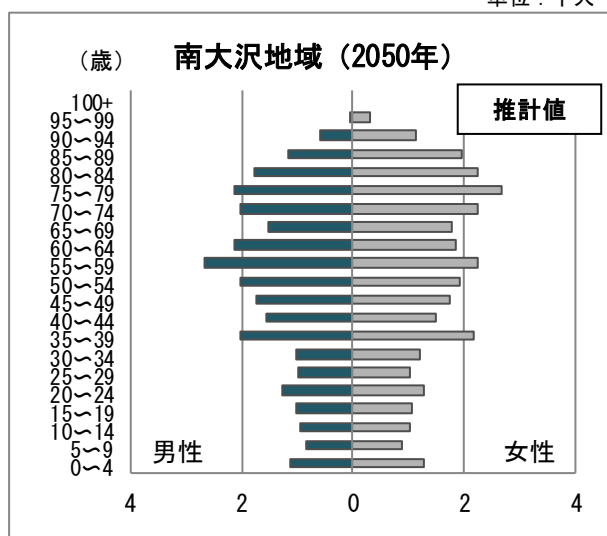
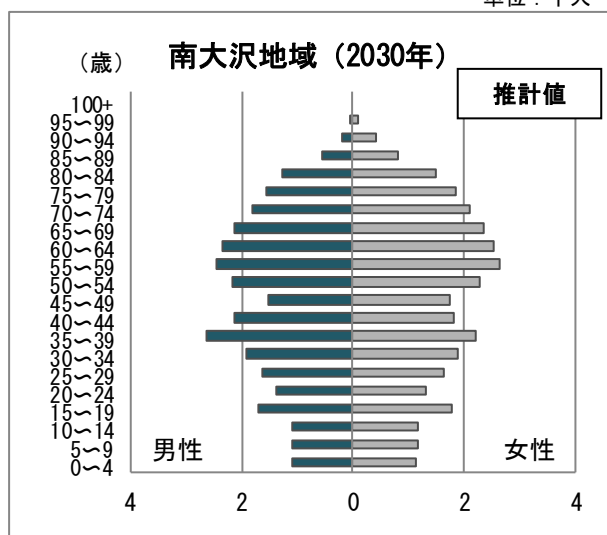
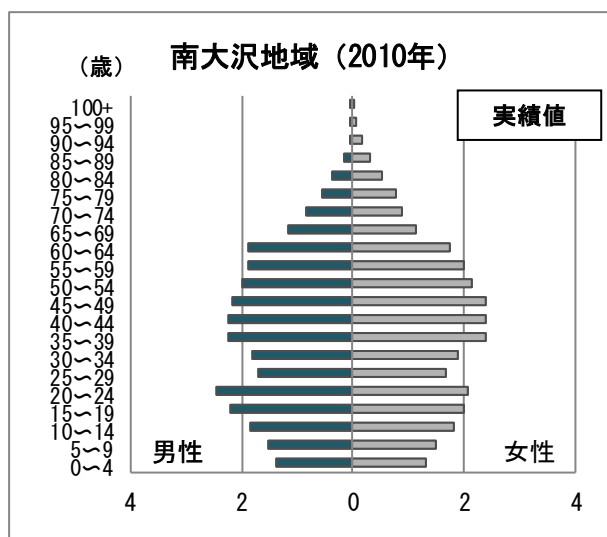
図表3 - 19 - 3【南大沢地域】人口と人口比率の詳細

年	0～14		15～64		65～		合計	
2010	9.4	16.3%	41.2	71.7%	6.9	12.0%	57.5	実績値
2015	9.4	14.9%	43.7	68.8%	10.4	16.3%	63.5	推計値
2020	8.4	13.2%	42.7	67.0%	12.6	19.8%	63.8	
2025	8.0	12.6%	41.0	64.4%	14.6	23.0%	63.7	
2030	6.8	10.7%	39.7	62.9%	16.6	26.4%	63.1	
2035	6.5	10.5%	36.9	59.6%	18.5	29.9%	61.8	
2040	6.0	10.1%	34.0	56.7%	19.9	33.2%	59.9	
2045	5.6	9.7%	31.7	55.2%	20.1	35.1%	57.3	
2050	6.1	10.1%	32.4	53.9%	21.6	36.0%	60.1	

単位：千人

※図表3 - 19 - 3は、図表3 - 19 - 1
と3 - 19 - 2の数値を表として示
したもの

図表 3 - 19 - 4【南大沢地域】人口ピラミッド



図表 3 - 19 - 5【南大沢地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	1.4	1.3	1.1	1.1	1.1	1.3
5～9	1.5	1.5	1.1	1.2	0.8	0.9
10～14	1.9	1.8	1.1	1.2	0.9	1.0
15～19	2.2	2.0	1.7	1.8	1.0	1.1
20～24	2.5	2.1	1.4	1.3	1.3	1.3
25～29	1.7	1.7	1.6	1.6	1.0	1.0
30～34	1.8	1.9	1.9	1.9	1.0	1.2
35～39	2.2	2.4	2.6	2.2	2.0	2.2
40～44	2.2	2.4	2.1	1.8	1.5	1.5
45～49	2.2	2.4	1.5	1.7	1.7	1.8
50～54	2.0	2.2	2.2	2.3	2.0	1.9
55～59	1.9	2.0	2.5	2.6	2.7	2.3
60～64	1.9	1.8	2.3	2.5	2.1	1.8
65～69	1.1	1.1	2.1	2.4	1.5	1.8
70～74	0.8	0.9	1.8	2.1	2.0	2.3
75～79	0.6	0.8	1.6	1.8	2.1	2.7
80～84	0.4	0.5	1.3	1.5	1.8	2.2
85～89	0.1	0.3	0.6	0.8	1.2	2.0
90～94	0.0	0.1	0.2	0.4	0.6	1.2
95～99	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.3
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	28.4	29.1	30.7	32.4	28.5	31.6

単位：千人

※図表 3 - 19 - 5 は、図表 3 - 19 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【南大沢地域】

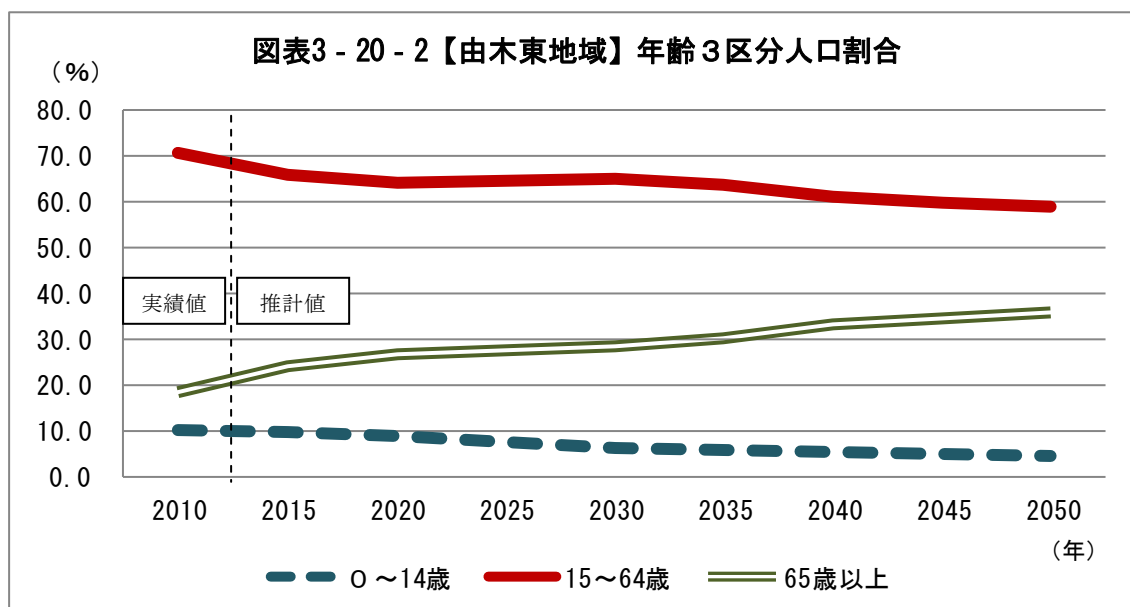
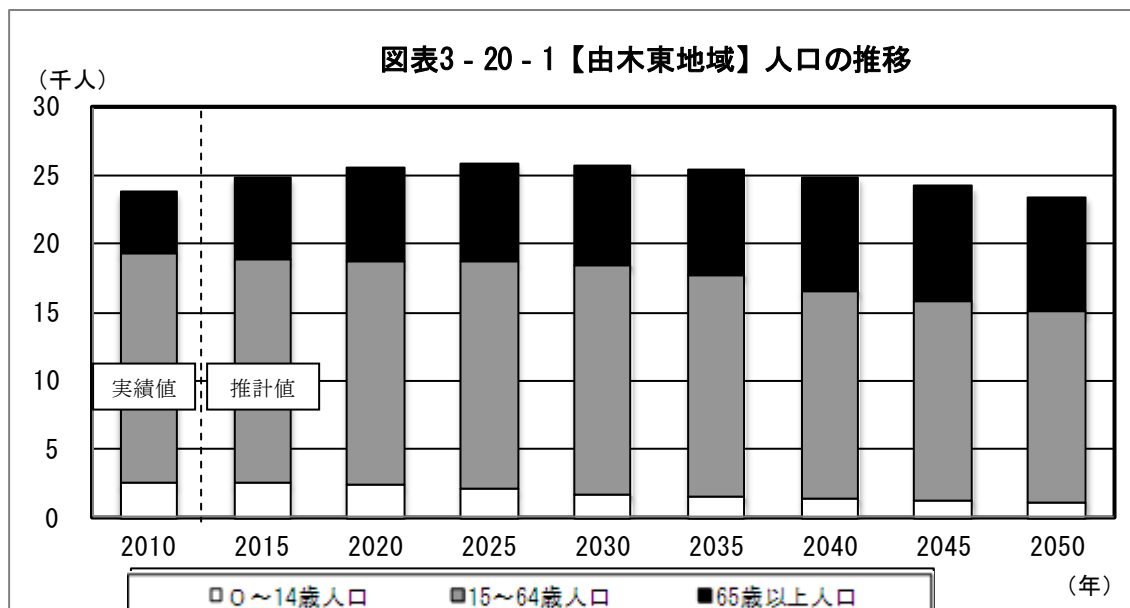
◆人口構造の特徴

南大沢地域の総人口は 2020（平成 32）年に 6 万 3,800 人でピークとなり、その後大きくは減少しない（図表 3 - 19 - 1）。老年人口比率は、2010（平成 22）年時点では 12.0%だが、2040（平成 52）年には 30%を上回る（図表 3 - 19 - 2）。人口ピラミッドからは、2050（平成 62）年にかけて若年層の減少が見られる（図表 3 - 19 - 4）。

◆推計時の調整

男女とも近年における 15～19 歳、20～24 歳の転入とその後の転出が他地域と比べて多いため、当該世代の男女人口を調整。また、開発等による人口の急増地域に関して、DID の人口密度をもとに転入率を調整。

(13) 由木東地域（東部地域）



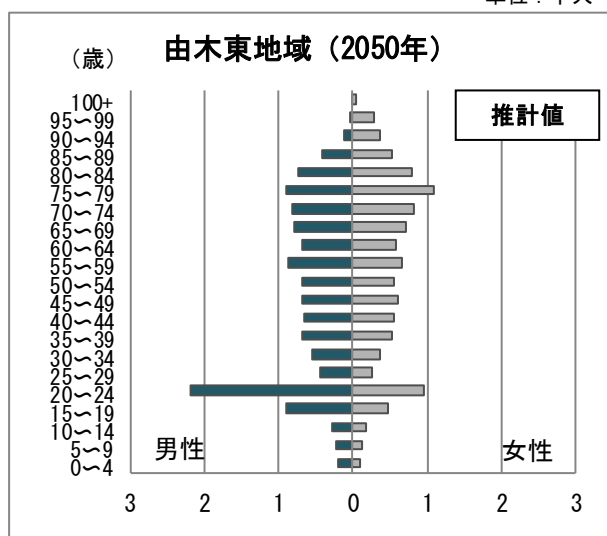
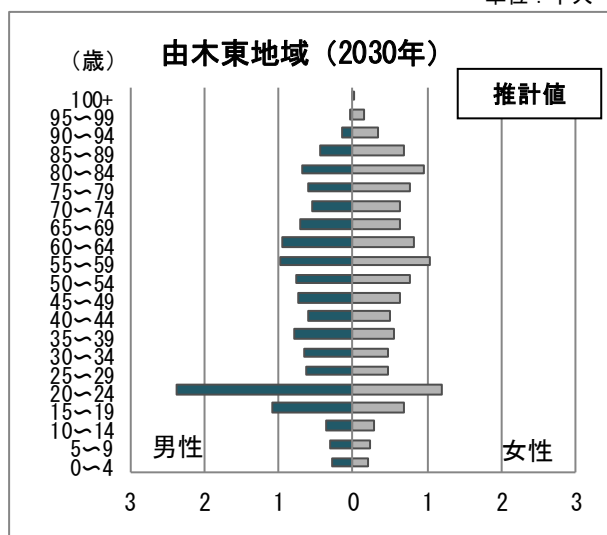
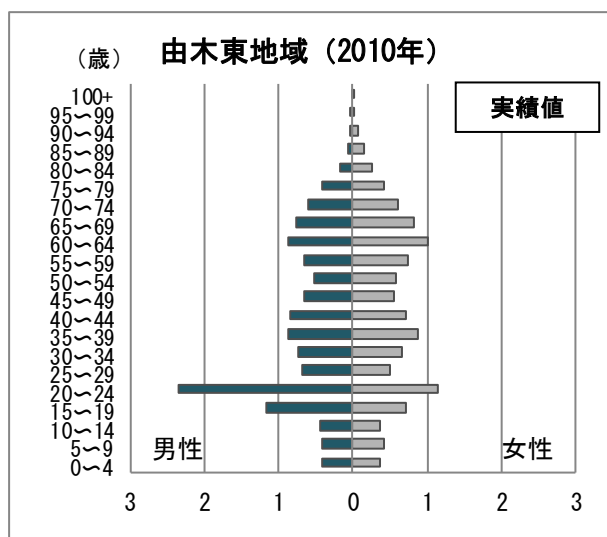
図表3 - 20 - 3【由木東地域】人口と人口比率の詳細

年	0~14		15~64		65~		合計	
2010	2.5	10.3%	16.9	71.0%	4.4	18.6%	23.8	実績値
2015	2.5	10.0%	16.4	65.9%	6.0	24.0%	24.8	推計値
2020	2.3	9.0%	16.4	64.4%	6.8	26.7%	25.5	
2025	2.0	7.8%	16.7	64.6%	7.1	27.6%	25.8	
2030	1.7	6.4%	16.8	65.1%	7.3	28.5%	25.7	
2035	1.5	5.8%	16.2	63.7%	7.8	30.5%	25.4	
2040	1.4	5.5%	15.2	61.1%	8.3	33.4%	24.8	
2045	1.3	5.2%	14.5	60.0%	8.4	34.9%	24.2	
2050	1.1	4.7%	13.9	59.3%	8.4	36.0%	23.4	

※図表3 - 20 - 3は、図表3 - 20 - 1
と3 - 20 - 2の数値を表として示
したもの

単位：千人

図表 3 - 20 - 4【由木東地域】人口ピラミッド



図表3 - 20 - 5【由木東地域】人口構成の詳細

年齢	2010		2030		2050	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0～4	0.4	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1
5～9	0.4	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1
10～14	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.2
15～19	1.2	0.7	1.1	0.7	0.9	0.5
20～24	2.3	1.2	2.4	1.2	2.2	1.0
25～29	0.7	0.5	0.6	0.5	0.4	0.3
30～34	0.7	0.6	0.7	0.5	0.5	0.4
35～39	0.9	0.9	0.8	0.5	0.7	0.5
40～44	0.8	0.7	0.6	0.5	0.7	0.6
45～49	0.7	0.6	0.7	0.6	0.7	0.6
50～54	0.5	0.6	0.8	0.8	0.7	0.6
55～59	0.7	0.7	1.0	1.0	0.9	0.7
60～64	0.9	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6
65～69	0.8	0.8	0.7	0.6	0.8	0.7
70～74	0.6	0.6	0.5	0.6	0.8	0.8
75～79	0.4	0.4	0.6	0.8	0.9	1.1
80～84	0.2	0.3	0.7	1.0	0.7	0.8
85～89	0.1	0.2	0.5	0.7	0.4	0.5
90～94	0.0	0.1	0.1	0.3	0.1	0.4
95～99	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3
100+	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	12.7	11.0	13.7	12.1	12.8	10.6

単位：千人

※図表 3 - 20 - 5 は、図表 3 - 20 - 4 の数値を表として示したものであり、網掛け部分は当該年・性別の中で最も人口が多い年齢層を表している。

【由木東地域】

◆人口構造の特徴

由木東地域の総人口は 2050（平成 62）年にかけてほぼ横ばいとなる（図表 3 - 20 - 1）。年少人口比率と生産年齢人口比率が低下し、老年人口比率が上昇する（図表 3 - 20 - 2）。人口ピラミッドからは、学生世代の転入と 20 代後半での転出が見て取れる（図表 3 - 20 - 4）。

◆推計時の調整

男女とも近年における 15～19 歳、20～24 歳の転入とその後の転出が他地域と比べて多いため、当該世代の男女人口を調整。